

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **69** 2019
July

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.12

V-iCliniX講座
キックオフシンポジウム



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージvol.12	3
V-iCliniX 講座キックオフシンポジウム	4
2018年度海外リサーチ・クラークシップ研究成果報告会を開催しました	6
福建医科大学訪問団が来学されました	8
研究紹介	9
平成30年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	10
MBT 研究所だより	11
図書館だより	12
未来への飛躍基金だより	13
情報推進室の紹介	14
医療情報部の紹介	14
臨床研究センターの紹介	15
生命倫理監理室の紹介	16
看護部情報管理室の紹介	16
奈良県立医科大学医学部医学科同窓会の取り組み	17
医学科昭和62年卒業生の同窓会が開催されました	17

Campus News

MBT ウェアラブル端末の実証実験開始	18
新入生オリエンテーションを行いました	18
Case Western Reserve UniversityからKingman教授が来学されました	18
MBT オープンミーティングの開催に向けて	18
フエ中央病院の耳鼻科部長、国際部副部長が本学を訪問されました	19
手作り「布絵本」を寄贈していただきました	19
台湾 国立中正大学 訪問団が来学されました	19
MBT ビジネスマッチングを開催しました	19
MBT オープンミーティングを開催しました	20
第1回奈良臨床漢方医学セミナー（循環器領域編）を開催しました	20
MBTの研究発表について	20
公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しました	20
奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました	21
KAMPO 勉強会を開催しました	21
国立台湾大学から楊医師が本学を来学されました	21
大学院看護学研究科のオープンキャンパス2019を開催しました	21
ASUKA シンポジウム2019「再生医学における新展開」を開催しました	22

Winner Report

第28回日本有病者歯科医療学会	22
奈良県警察本部より警察協力章を受章しました	22
第78回日本医学放射線学会総会2018年度栗林研究奨励賞を受賞しました	23
第59回日本呼吸器学会学術講演会で学術部会賞優秀賞を受賞しました	23
第107回日本泌尿器科学会総会賞を受賞しました	23
第108回日本病理学会総会において優秀発表賞を受賞しました	23
「日本化学療法学会学術奨励賞」を受賞しました	24
The 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver SocietyでBest ePoster awardを受賞しました	24
第26回肝細胞研究会において優秀ポスター賞を受賞しました	24
第26回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	24
第8回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	24
第224回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞（最優秀演題賞）を受賞しました	25
横断的共同研究助成事業の採択について	25
令和元年度（第1回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定（国際交流センター）	25
令和元年度 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました（国際交流センター）	25
特定行為研修急性期コースを修了しました	26
特定行為研修在宅コースを修了しました	26
日本肝胆膵外科学会International Observership Programによる留学制度に選出されました	26
令和元年度奈良県看護功労者知事表彰を受賞して	26
令和元年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	26

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	30
-------------------------------	----

Information

公開講座情報	31
大学入試日程	31
メディア掲載情報／学内向け広報グッズ貸出等について／編集後記	32

理事長・学長からのメッセージ vol.12

将来にわたって奈良医大が奈良医大自身で決定権を持つ「主たる大学」として存続するために

主たる大学とは

「主たる大学」とは、「単に他大学に従属していない大学」を意味するものではありません。この2つの大学の相違は、全国的な存在感にあると思います。橿原の地にあっても、様々な取り組みによって全国的に存在感がある大学にすることは可能です。奈良県だけの大学で良いという意見も聞きます。しかし私は、奈良医大は存在感の大きい医科大学であるべきだと思っています。なぜなら、単なる地方大学には優秀な人材は集まらないからです。存在感と魅力がある大学にこそ優秀な人材が集まります。優秀な医師や看護師が多い県と少ない県では、その県の住民が受ける医療サービスの質に大きな差が出ます。私は、優秀な人材を奈良医大に集めることにより、奈良県や県民の皆さんに貢献したいと思っています。

主たる大学になるための具体策

具体策につきましては、過去に学報等で報告してきました。世界に例がない奈良医大の MBT 構想、そして東京キャンパスなど5つの橿原地域外キャンパスの設置、外部資金による大型寄附講座の開設、海外への学生派遣、ハーバード大学やミシガン大学など海外大学との連携の推進など、これまでの取り組みの代表例 21 項目を、表にまとめて学報の前号（5月号）で提示しております。

本号では、それ以後の出来事について、述べたいと思います。

V-iCliniX 講座キックオフシンポジウム

中谷医工計測技術振興財団から 6000 万円×5 年の寄附をいただき設立された講座のキックオフシンポジウムが 5 月 16 日に開催されました。学内から 247 名、けいはんな学研推進機構、奈良先端大、同志社大などから 76 名、合計 323 名の参加があり、期待の大きさを感じました。

奈良先端科学技術大学院大学との交流

奈良医大に高いレベルの工学的知識や技術を導入するために、昨年 6 月に奈良先端大の横矢学長と協議を行い、具体的な連携の枠組みがスタートしました。本年 6 月には奈良先端大との共同研究助成事業を始めました。また、7 月 30 日には、第 2 回の研究者交流会を奈良医大で行います。多くの先生方の参加をお待ち申し上げます。

THE 世界大学ランキングのランク入り

学長就任後 THE 世界大学ランキングのランク入りをめざしておりましたが、2019 年度 THE 世界大学ランキング日本版で初めてランク入りを果たしました。特に教育リソース分野で上位（1 位東大、7 位阪大、8 位奈良医大と名古屋大、10 位東工大）となりました。

荒井知事との面談再開

知事選のため中断しておりました知事と学長の 2 人での定期面談が、荒井知事の再選を受けて再開されました。奈良医大の発展には、奈良県のサポートが欠かせません。知事との緊密な連携は不可欠のものと考えています。例えば、より良い職場・教学環境づくりなどです。奈良県に対するご意見等がございましたら、私の元に届けていただければ幸いです。

地震・災害対策についてのお願い

奈良県に対して耐震対策について要望してきましたが、平成 28 年 8 月本学独自の対策としての臨床医学研究棟の移転方針を臨床系の先生方と A 棟活用検討委員会と協議の上決定しました。平成 30 年 11 月には第 1 段階の仮移転先の整備が完了し、対象の先生方に移転をお願いしておりますが、実際に移動された方は約半数程度にとどまっております。ぜひ早期の移転をお願いいたします。

V-iCliniX 講座キックオフシンポジウム

2019年2月、中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成を活用して奈良県立医科大学に設置した新寄附講座「V-iCliniX 講座（生体5次元インフォマティクス国際統合ハブ）」の設立を記念し、5月16日にキックオフシンポジウムを大講堂において開催しました。

佐藤先生は、従来の生体計測による4次元（時空間）情報に、人体の多階層ネットワークが織り成す「第5の軸」を加えた「生体5次元情報」を解読できる技術を創出するため、システム

生物学、データサイエンス、数理計算科学、AI、工学、臨床医学を横断した研究を開始され、それにより得られる生体情報を利用することで、疾患の予兆や重症化、全身網羅的な医薬品の効果・副作用について痛みを伴うことなく、リアルタイムで予測できる技術を開発するとともに、地域社会・経済に貢献する人材を育成することを目的として、研究をスタートされます。

当日は、佐藤先生がどのような研究をされているのか、「生体5次元情報」とは？、と多くの方が興味をもち、他機関の研究者等も含めて300名を超える出席がありました。



会場の様子

まず本学細井理事長・学長の挨拶に続き、中谷財団の寶田事務局長が財団のご紹介をされました。その後、佐藤教授の研究紹介では、身体の状態を判断するこれまでにない新しい方法を生み出すために、今年2月から基礎的な研究がはじまったと

紹介しました。そして、今は患者に投与して効果を試す方法がとられている医薬品の開発などが、将来的には、仮想現実の中でできるようになると展望を述べました。



細井理事長・学長の挨拶



佐藤先生の研究紹介



寶田事務局長の財団紹介

佐藤先生の研究紹介のほか、座長に嶋研究部長、吉栖基礎教育部長を迎え、学内からは循環器内科学・斎藤教授「心腎連関の分子機序」、腎臓内科学・鶴屋教授「腎臓から見た心腎連関：CKD-MBD」、口腔外科学・桐田教授「唾液腺の臨床医学」、発生・再生医学・栗本教授「単一細胞遺伝子発現解析の展望」と

題した講演、MBT 研究所・梅田研究教授がMB T 紹介について講演しました。

また、学外から東京医科歯科大学・田中教授、けいはんなRC 事業・森田事務局長 他の講演もあり、最後に車谷副学長が閉会の挨拶をしました。



斎藤教授の研究紹介



鶴屋教授の研究紹介



桐田教授の研究紹介



栗本教授の研究紹介



梅田研究教授の研究紹介



田中教授（東京医科歯科大学）の研究紹介



閉会の挨拶をする車谷副学長

4 時間という長い時間でしたが、本学の教職員や大学生だけでなく、他機関の先生方もそれぞれの講演を興味深く聞き入っていました。V-iCliniX 講座の研究が目指す「AI・バイオ・工学を融合させ、新しい概念である『生体 5 次元情報』を解読する医工計測技術を創出する『知・もの・人』づくり計画」に対する期待の高さが窺われました。

シンポジウムの後には、レセプションを開催し、多くの先生方が出席され各自の研究内容について熱く語り合う時間となりました。

研究分野を超えて、奈良医大のなかでつながりができ、さらに研究が広がっていくことを期待します。



レセプションの様子

2018年度 海外リサーチ・クラークシップ研究成果報告会を開催しました

5月14日、「2018年度海外リサーチ・クラークシップ研究成果報告会」を開催し、2019年1月～3月に海外15施設に派遣された医学科3年生16名が10週間の研究成果を報告しました。研究室紹介、研究内容、後輩へのアドバイス等、個性溢れる発表内容で、留学前より大きく成長した姿を披露しました。

*リサーチ・クラークシップとは医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設に参加することにより研究マインドを育てることを目的としています。



左より車谷医学部長、2018年度派遣学生16名、森准教授(右奥)

MESSAGE

医学部長
車谷 典男



本学は、学生の研究マインド育成のために、学生の自主研究を奨励するだけでなく、それを支援する仕組みを作っています。医学科2年生の3学期に希望者(もちろん選抜試験があります)に実施している海外の研究室への単身での10週間実習が、その一つです。全く違う環境下で、ホームステイ先と研究室をひたすら往復しながら、先駆ける研究者たちの研究に没頭する姿を間近に見て、新時代の息吹を感じることは、研究マインドを大きく育ててくれるものと確信しています。

基礎教育部長
吉栖 正典
(薬理学教授)



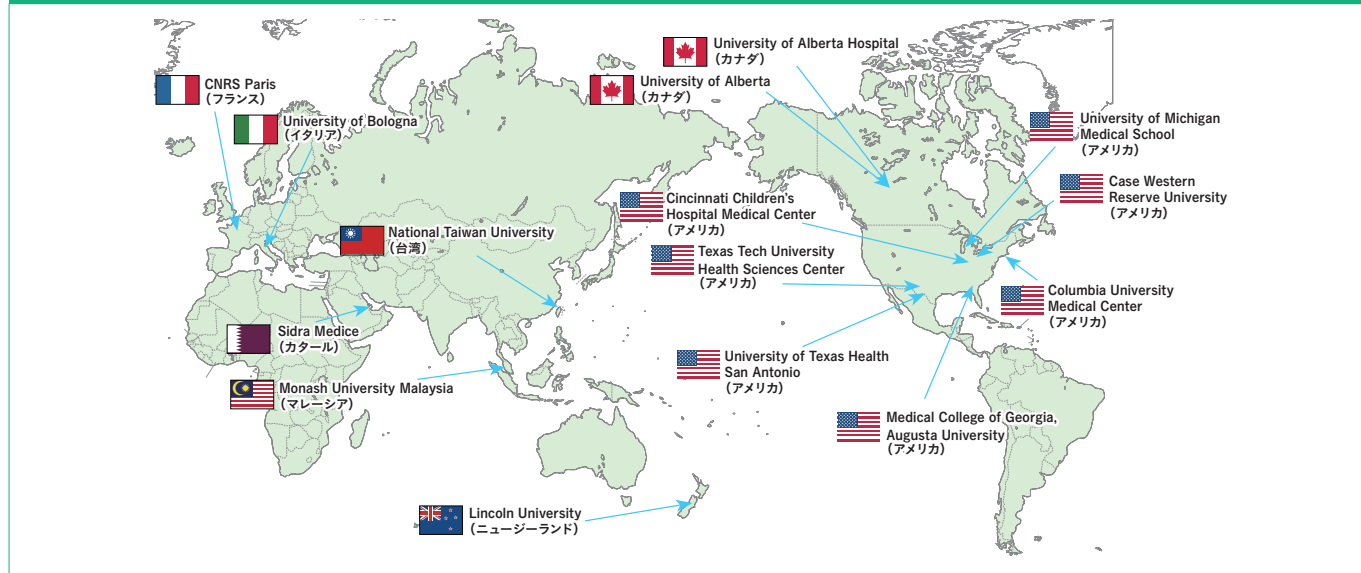
リサーチ・クラークシップはもともと4年時に行っていた研究室配属実習を衣替えしたものです。研究室配属はCBT期間をはさみ、4週間と短かったため、研究を行うというより研究を見学するといった方がふさわしいものでした。基礎医学教育協議会で議論して、2年生の1～3月の期間にリサーチ・クラークシップを行い、学外・海外への学生の派遣も決定しました。海外に派遣された学生の報告を聞くと、短期間で大きく成長されたことを実感します。

リサーチ・クラークシップ
海外派遣担当教員
森 英一郎
(未来基礎医学准教授)



本学での海外リサーチ・クラークシップ3年目となる昨年度は、これまでで最大となる15の研究室に16名を派遣しました。多くの学内の先生方からの紹介で、過去3年間で合計38の研究室に43名を派遣してきました。帰国後も研究室に所属して研究活動を継続する学生が徐々に増えてきており、本学の学生の中に、研究マインドが少しずつ根付いてきているという印象を持っています。在学中から卒業へと継続性を持たせることが出来るような体制を整えていきたいと思っています。

2018年度リサーチ・クラークシップ海外派遣先(15施設)



Research Clerkship Experience

リサーチ・クラークシップ体験談

医学科3年 渡邊 真子

派遣先：Division of Pulmonary, Critical Care and Sleep Medicine, Case Western Reserve University

今回の海外派遣は、2ヶ月という研究を行うには短い期間でしたが、その中で学び、吸収したことは非常に多く、今後自分が進んで行く道においても大いに役立つことばかりでした。中でも、非常にダイナミックなプロジェクトを行っている研究室に通う中で、研究は辛抱強く試行錯誤を重ねる過程なのだとことを学びました。

アメリカでの生活は初めてのことも多く、毎日がとても刺激的でした。研究のことだけでなく、アメリカという国について今まで知らなかったことをたくさん学び、様々な人と交流することで、視野が大きく広がったように感じています。

今回得られた経験を活かして、今後も様々なことにチャレンジする精神を持っていきたいと思います。

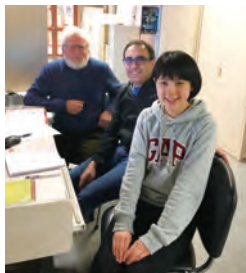


大学医学部キャンパス前にて

医学科3年 中前 和

派遣先：Laboratoire des Protéines et des Systèmes Membranaires (LPSM), Institut de Biologie Intégrative de la Cellule (I2BC) and Institut des Sciences du Vivant Frédéric-JOLIOT

私はフランスの研究室で二か月半お世話になりました。親切な先生の下で毎日朝から晩まで研究させて頂き、研究の進め方やサイエンスとの向き合い方など研究者として大切なことを肌で感じて学ぶことができました。積極的に質問したり、沢山の失敗をしながら学んだりと、学生の立場だからこそできることも多く、また、早い段階で海外の研究に触れることは、残りの学生生活にできること、やりたいこと、延いてはそれ以降の将来のビジョン、を考えるにあたり、非常に良い経験になりました。短い期間ではありましたが、母国語の通じない異国の地で様々な国の人や文化と交流し、研究面だけでなく、人間性の面でも大きく成長して帰国することができました。最後にこの貴重な機会を与えて下さった方々に感謝申し上げ、この意を忘れず返返しできるように精進して参ろうと思います。

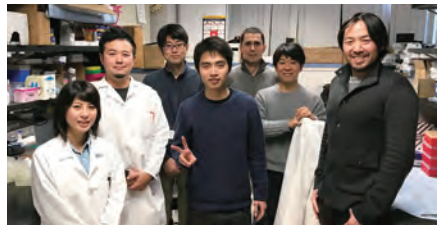


With Jose Luis & LE MAIRE Marc

医学科3年 西岡 樹

派遣先：Kamada Laboratory, Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, University of Michigan Medical School

私はアメリカのミシガン大学鎌田ラボでリサーチクラークシップを行いました。最初の頃は、自分の知識の少なさが原因で、細かい研究内容や実験の方針を理解できない部分があり、悔しい思いをしました。なんとか理解したいという思いで努力していると、徐々に先生方のディスカッションにも参加できるようになり、自分なりの意見を述べることもできるようになりました。より一層実験へのやる気が出ましたし、予想に反する結果が得られたときも、その結果を考察することが非常に楽しくなりました。理解できないことや難しいことに対して、屈することなく熱意を持って頑張ることが研究をするうえで大切なことであり、それは今後の自分の人生においても大切なことだと学びました。日本でもミシガンでの経験を活かして頑張りたいと思います。



鎌田ラボのメンバー

医学科3年 鄭 美栄

派遣先：Orthopedic Pathophysiology and Regenerative Medicine Unit, Rizzoli Orthopedic Institute, Bologna, Italy.

私はイタリアのBolognaにあるNicola Baldini教授の研究室で約2ヶ月間、実習させていただきました。研究室内には先生方が20人程度いらっしゃって、今回は主に3名の先生から教わっていました。皆さんとても親切で、ラボの雰囲気も非常に暖かかったです。先生方の実験を見学させていただいたり、整形外科のmeetingや新しい機械の説明会への参加、関連論文の読解などを通じて沢山の経験操作や疾病に関する知識のみならず、実験の組み立て方等今後の学内での研究活動に活かせるような考え方を得ることができました。加えて海外で活動されている研究者の方々、そしてイタリアの医学部生や工学部生など、新たな友人と出会えたことも心の中のこころ体験でした。



ラボで知り合ったイタリアの大学生と共に

医学科3年 森川 成孝

派遣先：University of Alberta Hospital Clinical Islet Laboratory

カナダでのリサーチ・クラークシップでは、想像以上に多くのことを吸収し体験できたと思います。実習をさせていただいた研究室の研究内容について深く学習できただけでなく、病院内のセミナーへ参加することなどを通じて様々な知識や経験を得ることができました。また現地で知り合った方々と文化や教育、価値観の違いなど様々な話を英語ですることを通じ、2ヶ月という短い期間でありながらも視野がぐっと広がってゆく実感を得ることができました。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、この貴重な経験をぜひ学内全体に波及させるだけでなく、今後の学生生活や医師としてのキャリアプランを考えてゆく糧としてと考えています。



手術見学後、ラボ近くにて

医学科3年 佐々木 俊秀

派遣先：Department of Surgery, National Taiwan University Hospital

台湾大学病院で脾腫瘍に関する臨床研究をさせていただきました。手術や外来、回診も見学し、その背景を含めて臨床研究がどのようなものであるかを勉強することができました。外科の先生の患者さんへの丁寧な接し方、手術への真剣さ、他の職種の方や学生への優しさなどの身近な視点から国の枠を超えた医師どうしの繋がりとといった広い視点まで、様々な角度からたくさんことを学びました。また、現地の学生と交流することで、彼らが積極的に医学を学んでいること、英語で活発に議論すること、留学生に対して親切に接してくれることなどを知り、自分を見つめなおす機会になりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝し、学んだことを生かしてこれから励んでまいります。



College of Medicine, National Taiwan Universityにて

2018年度実績リサーチ・クラークシップ海外派遣先・派遣学生 (15施設 16名)

- | | | | |
|--|-------|--|--------|
| ■ University of Michigan Medical School (USA) | 西岡 樹 | ■ Monash University Malaysia (Malaysia) | 野津 仁志 |
| ■ University of Alberta Hospital (Canada) | 森川 成孝 | ■ National Taiwan University (Taiwan) | 佐々木 俊秀 |
| ■ Columbia University Medical Center (USA) | 下 結香 | ■ Texas Tech University Health Sciences Center (USA) | 上垣 由紀 |
| ■ Sidra Medicine (Qatar) | 小澤 亨平 | ■ Augusta University (USA) | 小林 かれん |
| ■ University of Alberta (Canada) | 北吉 史佳 | ■ Lincoln University (New Zealand) | 船内 文裕 |
| ■ Cincinnati Children's Hospital Medical Center (USA) | 藤原 邑 | ■ University of Texas Health San Antonio (USA) | 米田 朋矢 |
| ■ Institut de Biologie Intégrative de la Cellule (I2BC) and Institut des Sciences du Vivant Frédéric-JOLIOT (France) | 中前 和 | ■ University of Bologna (Italy) | 鄭 美栄 |
| ■ Case Western Reserve University (USA) | 渡邊 真子 | | 山岡 大真 |

福建医科大学訪問団が来学されました

2019年5月21日、本学協定校である福建医科大学より、学長の陳 曉春氏をはじめ、陳 江教授（口腔医学）、林 賢浩教授（心理学）、王 世鄂教授（組織・胚胎学教授）、李 曉嫻さんの5名が来学されました。



(後列左より) 趙焜助教、李氏、王教授、林教授、福益課長、森准教授、東超学内講師
(前列左より) 陳教授、陳学長、細井学長、車谷医学部長

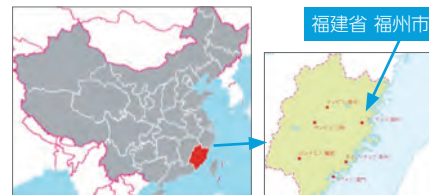
福建医科大学

福建省福州市に位置する一学年1000人の学生規模を誇る医科大学、中国医系大学ランキング17位

[出典：(世界の大学ランキング) Academic Ranking of World Universities]



福建医科大学正面 (福建医科大学HPより)



福建省HPより

ミーティングでは、中国における入試制度、医学生の現状、両校の国際交流の在り方、実績、今後の目標などについて、活発な意見交換が行われました。

近年、国際交流に力を注ぐ福建医科大学は、在籍16,000人(学部生・院生)のうち、年間約500人の学生をアメリカ、オーストラリアなどへ派遣しており、また、受入れについても積極的で、世界約40の国と地域から400人の留学生を迎えているそうです。

留学生のための英語の講義やラボの設置、サマーキャンプの実施など、留学生の学びの環境に対して常に配慮をしている、とのお話もありました。

本学としても今後、協定校である福建医科大学と、学生・研究者の派遣・受入が可能となるよう、検討を重ねていきたいと考えています。



陳学長と細井学長の記念品交換



ミーティングでの意見交換



和やかな雰囲気での昼食会

地域における感染症内科の必要性



感染症センター 三笠 桂一
(現 名誉教授)

1. 感染症診療の現状と課題

社会のグローバル化の影響は感染症領域も例外ではありません。微生物は人や物と共に飛行機で高速大量にしかも地球規模で目まぐるしく移動しています。海外で発生した新興感染症が瞬く間に全世界に広がり我々は2009年に新型インフルエンザという形で経験しました。世界中の感染症がいつでも日本に飛び火する状況にあり、エボラ出血熱や中東呼吸器症候群などの輸入感染症や新興感染症に備えなければなりません。また、大規模な自然破壊や気候の変化などにより媒介生物とともに感染症の流行地域が拡大し、デング熱が日本でも発生したし、ジカ熱も話題となりました。そして、2003年の重症急性呼吸器症候群や鳥インフルエンザにみられるように動物疾病がヒトへ種を越えて拡大しています。さらに、日本の生食文化は腸管出血性大腸菌をはじめとする細菌やウイルスあるいは*Kudoa*のような寄生虫や原虫などの腸管感染症のリスクとなります。また、性文化の多様化により性感染症としてのAIDSや梅毒が増加し、これら生活習慣や多様な人の欲に根付いた感染症の克服は容易ではありません。それ以外にもワクチン対策の不備による麻疹や風疹の流行があります。

一方、MRSAや多剤耐性緑膿菌以外にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌など新たな耐性菌による医療関連感染が問題となっています。これらの耐性化の原因として抗菌薬の不適切投与や不必要投与、不適切な服用、また感染症診断のために適正な検査がなされていないことや、医療施設での不適切な感染管理や手指衛生の不備、そして旅行者による耐性菌の持ち込みと拡散、さらに畜産・農業界などでの抗菌薬投与があげられます。また、移植をはじめ抗ガン化学療法や免疫抑制薬や生物学的製剤による治療がなされ基礎疾患の管理は進歩したものの、様々な免疫不全を呈した宿主が増加し、それとともに感染症が重症化・難治化し、さらには血管内治療の進歩により血流感染が増加し、感染性心内膜炎や腸腰筋膿瘍や化膿性脊椎炎あるいは眼内炎などが増加しています。加えて、人口の高齢化とともに肺炎に遭遇する機会が増加しました。実際に当科の入院患者を2005年と2015年で比較しますと、患者数自体が倍増し、2005年は呼吸器感染症やHIV感染症の割合が多かったのに対し、2015年にはこれら以外の感染症が増加し、感染臓器も全身に及び、肺真菌症や敗血症、感染性心内膜炎や輸入感

症などが増加し、なかでも化膿性脊椎炎や腸腰筋膿瘍などが特に増加し、それまでなかった寄生虫や梅毒なども入院するようになり、10年で感染症が様変わりしました。このように変貌していく感染症に対応するために、我々は多様な感染症診療や感染管理を要求されています。

2. 地域における感染症内科の必要性

本学では、2003年に感染症センターが設立され、使命は感染症診療と感染管理とその教育です。まさにこれからの時代に必須の診療科といえます。具体的には一般感染症や新興感染症・輸入感染症・寄生虫疾患、HIV感染症や1類・2類感染症、そして、感染症診療支援とワクチン外来・海外渡航者外来などであり、感染管理は、抗菌薬適正使用の推進、医療関連感染対策の実施、針刺し事故防止や予防接種などの職業感染対策であり、それらの卒前・卒後の教育です。我々は血培陽性患者について介入を行っていますが、菌血症症例について、2008年以前の非介入群とその後の介入群で予後について比較しますと、病院全体の菌血症の死亡率は25.7%から10.3%と有意に改善を示しました。このように我々の存在は、病院全体の抗菌薬の適正使用と菌血症の予後改善に繋がり、病院全体の感染症マネジメントを底上げし安全で清潔な病院造りに貢献しています。一方、地域の基幹病院でも最近では感染症に関して同様の問題を抱え、感染症内科は必要な診療科となってきました。我々は地域の基幹病院に感染症内科の設置の支援とその後の連携を積極的に進め、地域における感染症診療と感染管理の普及に努めてきました。しかし、感染症専門医はまだ不足しており、今後も本学感染症センターが中心となって感染症全般について広く学べる場を提供し、その教育・指導を継続しておく必要があります。いよいよ来年はかつてないほどの人が海外から日本に流入する東京オリンピックがあり、その後には大阪万博が控え、さらに感染症対策を充実させるとともに優秀な感染症専門医を育成していかなければなりません。奈良県立医科大学と感染症センターの益々の発展を祈念しております。

平成30年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

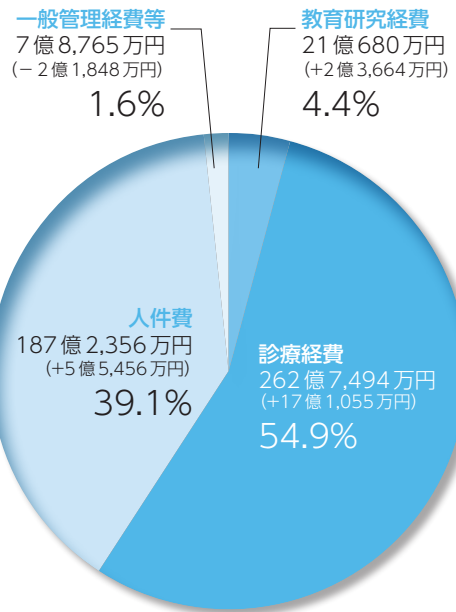
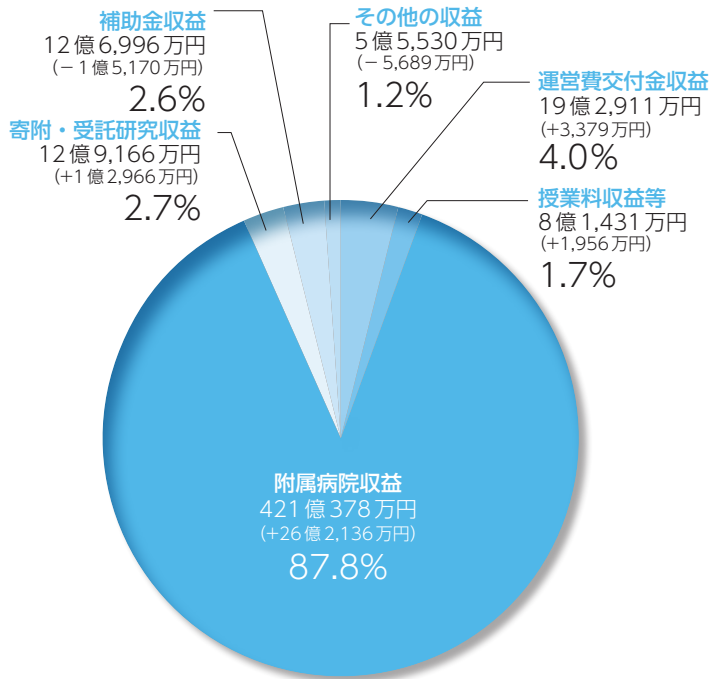
平成30年度決算 収益／479億6,412万円(+25億9,578万円) 費用／478億9,295万円(+22億8,326万円)

差引 7,117万円の黒字(H29 2億4,134万円の赤字)

※ () 内は前年との増減額

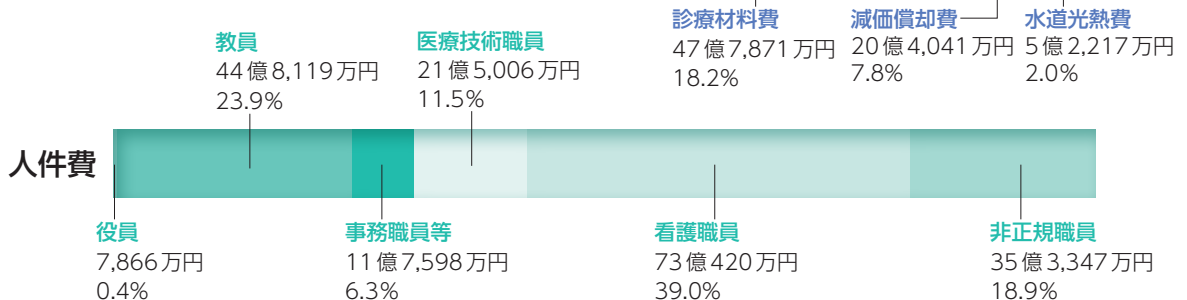
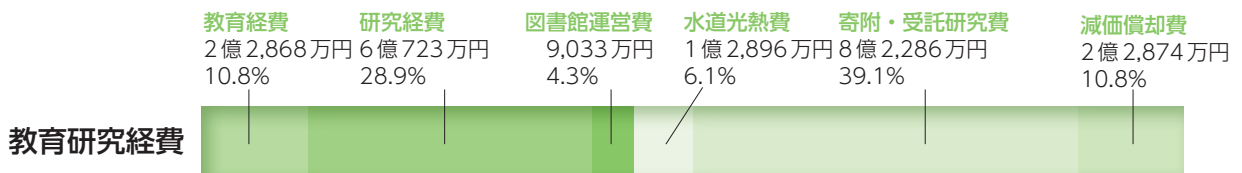
平成30年度は、前年度と比較して医薬品費や診療材料費といった診療経費や人件費を中心に費用が大幅増となりましたが、それ以上に附属病院における収益が増加したため、昨年度の2.4億円の赤字に比べ、3.1億円の収支改善となり、当期総利益が0.7億円と3期ぶりに黒字に転換しました。

しかしながら、今年度更新が完了した総合医療情報システムの償却や、A病棟改修等の施設・設備整備経費の増加などにより、今後、経営状況が厳しくなることが見込まれますので、皆さまには経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



収益

費用



平成30年度は、一般財団法人弘済会から、2,000万円の助成を受け、入退院支援センターの整備と、学生の授業用・大学院生の研究用パソコンの購入を行いました。

1. MBT ロゴマーク使用許諾第 1 号

MBT コンソーシアムでは、MBTの理念に則った製品の普及を促進するため、MBT ロゴマークを作成しておりますが、会員企業である株式会社昭和西川から、同社と本学北原紘教授が共同開発した「耳石に優しいめまい対策マットレス」に関し、MBT ロゴマークの使用申請がなされました。この申請は、MBT ロゴマーク承認審査委員会（委員長：同志社大学渡辺好章教授）で審議され、MBTの理念に合致した商品であるとしてMBT ロゴマークの使用が初めて許諾されました。「耳石に優しいめまい対策マットレス」は良性発作性頭位めまい症を引き起こす剥離耳石の後半規管、外側半規管への迷入を抑止することを可能とする就寝姿勢があるという北原教授の研究に基づく製品であり、一般への普及が期待されます。



MBT ロゴマーク
(製品用)

2. MBT オープンミーティング 2019 in 東京

5月24日、奈良医大とMBT コンソーシアムは会員企業の日本生命保険相互会社の協力を得て、日本生命日比谷ビルで、「MBT オープンミーティング 2019 in 東京」を開催しました。

今回のオープンミーティングは、①急速に国内外に活動の輪を拡げるMBT 活動報告、②MBT 活動の代表事例として、開発中のスマートデバイスを用いたスマートモニタリング「Safety-Net MBT」の開発報告とシステム機材デモ、③大阪・関西万博の誘致検討からコンセプト作りまで初期段階からかわられた大阪市立大学嘉名光市教授による「2025年開催に向けて目指す方向やMBTへの期待」の演題による特別講演の3本立てで実施しました。

当日は、会員26社、50名、非会員33社、47名、奈良医大教職員15名、合計112名が参加しました。



細井理事長によるMBTの活動報告



「Safety-Net MBT」の開発報告をする
恵川淳二先生



特別講演をする嘉名光市教授

3. V-iCliniX 講座キックオフ シンポジウム

本学は、佐藤匠徳先生を教授とする寄附講座「V-iCliniX 講座」を開設したところですが、これを記念して、5月16日に本学、けいはんなリサーチコンプレックス、MBT 研究所の共催によるキックオフシンポジウムを開催しました。V-iCliniX 講座は、「生体5次元インフォマティクス」という新しい概念と技術から得られる生体情報を活用することで、疾患の予兆や重症化、全身網羅的な医薬品の効果・副作用を、痛みを伴うことなく、リアルタイムに予測する技術を開発するとともに、地域社会に貢献する人材を育てることを目的とするものです。

キックオフシンポジウムは、300名以上の方が参加されるという盛況な催しとなりました。また、シンポジウム終了後には、MBT 研究所、MBT コンソーシアムの主催によるビジネスマッチングの場が設けられ、奈良医大、奈良先端大、けいはんなリサーチコンプレックスの先生方と企業がイノベーションを語る場を設けました。



講演する佐藤匠徳教授



ビジネスマッチングの様様

4. MBT 世界に向けて

MBTの必要性、実績、将来性等が世界から認識されています。

5月15日、台湾中正大学の副学長等12名がMBTについて本学に調査に来られました。MBT 研究所細井所長、梅田副所長がMBTの研究や取り組みを紹介し、活発な意見交換が行われました。徐々にMBTが世界に浸透しています。今後も引き続き世界に向けて発信していきますので、応援よろしくお願いたします。



世界への展開を語る細井所長

検索マスターへの道 (第15回)

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索するのかを解説するシリーズです。今回は、前号で紹介した PICO を使って具体的なテーマ 2 題の検索式を立てます。どちらも検索日は 2019 年 6 月 7 日、使用データベースは PubMed です。

【テーマ 1】炎症性腸疾患の炎症マーカーとしてロイシンリッチ α 2 グリコプロテインは CRP に比べて診断精度が高いか？

【検索式】

検索番号	検索キーワード	件数
#1	"Inflammatory Bowel Diseases"[mh]	76107
#2	inflammatory bowel disease*[tiab] OR "ulcerative colitis"[tiab] OR Crohn's disease*[tiab] OR Crohns disease*[tiab] OR Crohn disease*[tiab]	90520
#3	#1 OR #2	104205
#4	"leucine rich"[tiab] AND glycoprotein*[tiab]	499
#5	LRG-1[tiab] OR LRG1[tiab]	116
#6	#4 OR #5	559
#7	#3 AND #6	7
#8	"C-Reactive Protein"[mh] OR CRP[tiab] OR C-reactive protein*[tiab]	83585
#9	#3 AND #7 AND #8	4

検索を始める際は、テーマを構造的に理解するため PICO に当てはめます。今回は、**P**：炎症性腸疾患、**I**：ロイシンリッチ α 2 グリコプロテイン、**C**：CRP、**O**：診断精度とします。O は文献中では色々な表記がされていて検索モレのリスクが大きくなるため通常の検索ではあまり入れません。PIC それぞれの集合を作り、最後に AND で組み合わせます。

#1～#3 は「炎症性腸疾患」の集合です。#1 は MeSH、#2 では自然語の集合を作り、#3 でまとめています。キーワードの後ろにある角括弧([]) は検索フィールドを指定するタグで、[mh] は MeSH に限定、[tiab] はタイトルとアブストラクトに限定して検索できます (学報 58 号参照)。炎症性腸疾患には潰瘍性大腸炎とクローン病があり、#2 ではそれらの自然語 (学報 66 号参照) を単数形と複数形の両方が検索できるよう前方一致 (*) にしたり、ダブルクォーテーションで囲ってフレーズ検索にしています。クローン病のように人名がついた病名の場合、s やアポストロフィー (') の有無もキーワードのバリエーションとなります。#1 では炎症性腸疾患の MeSH "Inflammatory Bowel Diseases" のみで、潰瘍性大腸炎とクローン病の MeSH である "Colitis, Ulcerative" と "Crohn Disease" は入れていません。これらは "Inflammatory Bowel Diseases" の下位に含まれ、上位概念の "Inflammatory Bowel Diseases" の検索によって下位概念を含んだ検索がされているためです。このことは MeSH Database で確認できます。

#4～#7 は二種の診断マーカーについての式です。#4～#6 はロイシンリッチ α 2 グリコプロテインを、#8 は CRP を表しています。自然語では、ハイフン (-) の有無やギリシャ文字の表現 (α , alpha) などでも結果が異なってきますので、思いつくキーワードにちょっとした表記の違いがあればそれらも OR で繋げてください。

最後に PIC を組み合わせます。最終的に 4 件になりました。

自分の検索結果がこれでよいのか判断する方法として、キー論文の確認があります。この論文は必ず入っていてほしい、レビューするのならこの論文は外せないといったキー論文がどのテーマにもあるかと思えます。それが検索結果に含まれていれば検索の方向性は間違っていないということになります。ま

た、キー論文に付与されている MeSH などは検索式で使用するキーワードの参考となります。

【テーマ 2】膀胱がん患者におけるロボット支援下膀胱全摘除術は開腹手術に比べて生存率を上げるか？

【検索式】

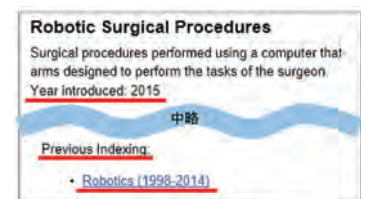
検索番号	検索キーワード	件数
#1	"Urinary Bladder Neoplasms"[mh] OR "Carcinoma, Transitional Cell"[mh] OR ("Urologic Neoplasms"[mh:noexp] AND Urothelium[mh])	57280
#2	"bladder cancer"[tiab] OR "bladder carcinoma"[tiab] OR bladder tumo*[tiab] OR "urothelial cancer"[tiab] OR "urothelial carcinoma"[tiab] OR urothelial tumo*[tiab]	47187
#3	#1 OR #2	69779
#4	robot*[tiab]	38453
#5	"Robotics"[mh] OR "Robotic Surgical Procedures"[mh]	24536
#6	#4 OR #5	42726
#7	Cystectomy[mh] OR cystectomy*[tiab]	15863
#8	#3 AND #6 AND #7	612
#9	"Survival Rate"[mh] OR "survival rate"[tiab]	226427
#10	#3 AND #6 AND #7 AND #9	22

PICO に当てはめ、**P**：膀胱がん、**I**：ロボット支援下膀胱全摘除術、**C**：開腹手術、**O**：生存率としました。今回も PIC の集合を作ります。

#1～#3 は膀胱がんの集合です。#1 の MeSH 集合では、膀胱がんの MeSH "Urinary Bladder Neoplasms" をまず入れます。また、膀胱がんは移行上皮 (尿路上皮) に発生するがんの一種ですので、膀胱がんの上位概念と尿路上皮の組み合わせや移行上皮がんの MeSH "Carcinoma, Transitional Cell" も OR で繋げています。#2 は自然語の組み合わせです。こちらも、膀胱がん、移行上皮がんについて考えられるキーワードを挙げています。

#4～#6 はロボット支援手術の集合、#7 は膀胱摘除術の集合です。#4 では robot の前方一致で検索しています。PubMed で前方一致検索をすると語尾変化 600 語までしか検索されません。今回の robot* は 600 語を超えませんが、car* や gastro* などシンプルな語幹の前方一致は 600 語以上の語尾変化があるため注意が必要です。

#5 では、ロボット手術について 2 種類の MeSH を挙げています。ロボット手術の MeSH は "Robotic Surgical Procedures" ですが、MeSH Database を確認すると、この MeSH ができたのは 2015 年、



(MeSH Database より)

それ以前は "Robotics" が付与されていたことが分かります。このように、新しい概念について検索するときは MeSH の有無だけでなく作成年や定義、それまで付与されていた MeSH 等の確認も必要になります。

PIC を AND で組み合わせると 611 件と多いため、O (生存率) も入れます。PICO を組み合わせると 22 件になりました。O を入れたことによりかなり件数が絞れますので、"Survival Rate" の上位概念である "Mortality" (死亡率) を使ってみてもよいかもしれません。

いかがでしたか？ PICO でテーマを構造的に理解すると、検索式が立てやすくなります。コクランレビューなどの Appendix でついている検索式もよく見ると構造的に立てられています。ぜひ一度見てみてください。

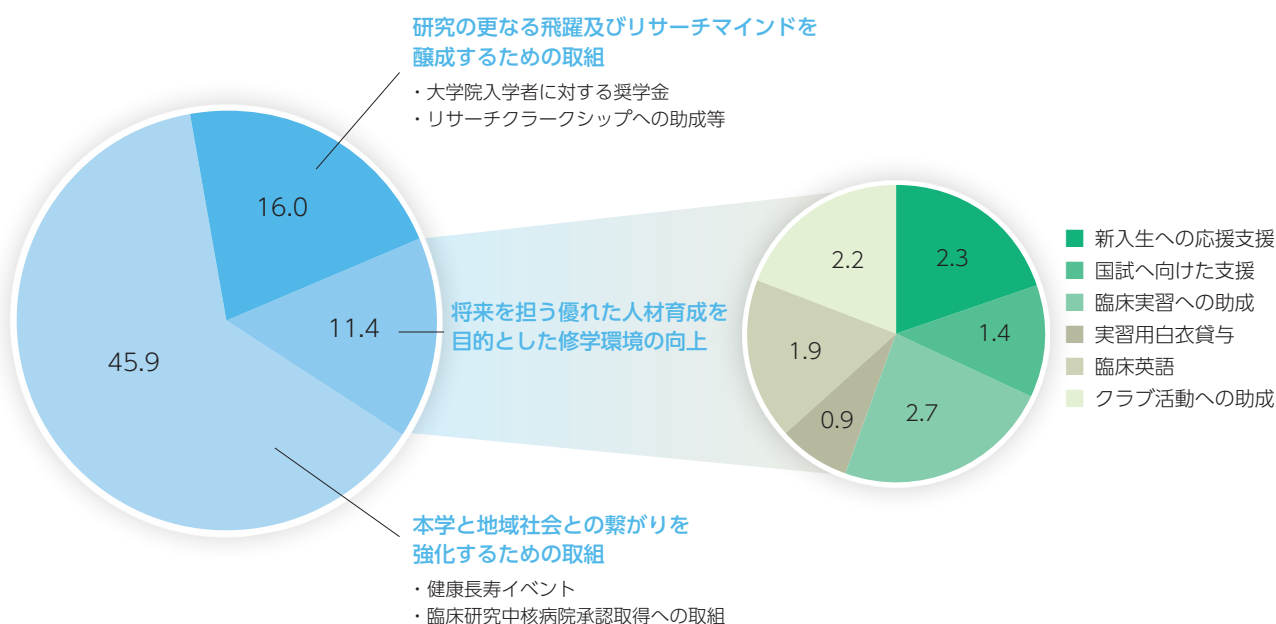
未来への飛躍基金だより

2018年度「未来への飛躍」基金 活用報告

「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

多くの皆様にご支援いただき、大変感謝しております。いただきましたご厚志は、学生への助成や臨床研究中核病院承認に対する取組への支援等さまざまな事業に活用させていただいております。今号では、2018年度の活用状況を掲載させていただきます。寄附者皆さまのご期待やご意志にお応えするべく活用してまいりますので、今年度も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

「未来への飛躍」基金取組内容



これらの取組を通して本学が、「地方の一大学」ではなく、優秀な学生が集まる「日本を代表する大学」となるきっかけにできればと考えております。

また、去る2019年4月の入学式後の保護者懇談会にて基金の保護者質問ブースを開設いたしました。理事長や医学科、看護学科の同窓会の方々のご協力により、保護者の皆様へ基金の説明や使途をご理解いただきました。

今年度に入ってすでに数十件のご寄附もいただいております。ふるさと納税制度を使用して、税の控除を受けることも可能です。基金のホームページにも最新情報を掲載しておりますのでぜひご覧ください。

次号にて活動内容実績の詳細をご報告をさせていただきます。



情報推進室の紹介

情報推進室は、平成31年4月に法人の情報システム等を統括する組織として新設され、次の業務を行っています。

情報推進室には、「情報推進係」と「情報企画係」が設置され、両係が協力して全学的に情報化の支援業務を担当しています。

【情報推進係】

- (1) 全学情報化の推進のための企画立案
- (2) 情報基盤の整備と維持管理
- (3) 情報セキュリティの企画及び運用
- (4) 情報システムとその利用者への構築運用支援
- (5) 情報活用能力の向上

【情報企画係】

- (1) 医療の情報化推進のための企画立案
- (2) 総合医療情報システムの構築、運用及び支援

従来は、大学と病院に分かれ情報システムの管理運用を行ってききましたが、情報化推進を行う組織としてまとまったことで、法人の情報化をさらに効果的かつ効率的に推進していきます。また、情報システムの構築にあたっては、セキュリティ、利便

性及び効率性等のバランスを考え、さらに情報の共有・活用についても積極的に推進していきます。

情報システムはツール（道具）です。利用者される方が積極的にかかわることでよりよいシステムに発展させることができると考えています。職員のみならず皆様からのご相談やご意見等をお待ちしています。



医療情報部の紹介

医療情報部は、電子カルテをはじめとする総合医療情報システムの管理・運営を担当しています。医師（医療情報部長）、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務（情報推進部門・診療情報管理部門・医事部門）の多職種から構成されており、スタッフそれぞれが各所属の業務をこなしながら、システムの安定稼働のため連携を行っています。

日々のシステム運用上で発生する様々な課題や問題点、また病院として新たに取り組むべき医療情報分野の事柄等について、毎週開催しているスタッフミーティングで熟議し、解決に向かうよう努めています。このミーティングでは、利用部門からの提案や要望に関しても取り扱っており、必要に応じて各部門の担当者と議論しています。

また、医療情報部が運営している会議として、電子カルテ委員会とその上位にある医療情報システム運営委員会があり、これらの委員会で医療情報の管理・運営に関する意思決定が為されています。

直近で医療情報部が関わった事業として、令和元年5月1日に稼働開始した新総合医療情報システムの更新があります。当該事業は平成29年2月の基本計画策定を皮切りに、稼働までの約2年半に渡って遂行されてきました。この間、医療情報部は診療科・各中央部門、その他事務部門等で組織された総数30以上にのぼるワーキンググループとともに新システムの

仕様や運用方法を検討し、各部署間の調整やシステム業者との折衝を行ってきました。職員各位にご協力いただき、甚大な障害に見舞われることなく無事に稼働を迎えることができましたが、課題・懸念事項は少なくありません。一日でも早いシステムの安定稼働と円滑な運用が実現するよう、継続的な改善をしてまいります。

医療の質の向上と安全の確保について、情報システムの観点から寄与できるよう、スタッフ一同一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



臨床研究センターの紹介

皆さん。

4月1日から臨床研究センターの場所がA棟3階(旧手術部)に変わりました。

現在8つの部門に分かれて研究者の支援にあたっております。改めて、当センターでは何をしているかを紹介させていただきます。

臨床研究の最初の大切なステップは研究者がアイデアまたはクリニカルクエスチョンを持つことです。漠然としたアイデアを形にすること、未完成のプロトコルをブラッシュアップすることなどは、試験の成功を左右する重要な要素なので、当センターではこれを考慮しながら、目標症例数確定のための医療統計をはじめ、知財への展開や実現可能性検討、資金調達等の支援も同時に行いながら支援していきます。

研究者が一番エネルギーを費やすのは試験の実施です。ここでは、知識や技術に加えて経験が不可欠です。データ登録等のデータマネジメント支援をはじめ、不測の事態(登録不振、プロトコル違反、連携不足、事故など)が起こりにくくすることや起こった後の処理など、この段階では、研究者が診療ではあまり経験しない内容の支援が多くなります。さらに臨床試験コーディネーター(CRC)の協力で、臨床研究中核病

院の承認に向けて、最も必要な機能である医師主導治験の支援も致します。我々の支援により常に高レベルを維持するという安心感を提供いたします。

試験が終了し結果の解析をすることになりますが、研究の成果は、データマネジメント業務のクオリティに左右されるので、データクリーニング、統計解析、解析報告書等、この部分をいい加減にするとおぼろげ所で失敗したり、データ品質そのものを問われる事態が起こりかねません。過去の研究不正もこの部分が重要であったことから、研究者への支援が重要になる部分です。

データ検証の支援も大切な業務です。臨床試験の正当性を検証するために欠かせないモニタリングや監査がこれに当たります。実際には経験を積んだモニターや監査担当者がこの業務を担うことが必要です。本学でも、モニタリングの研修を受けた方もおられますが、この面でも当センターがご相談をお受けします。

我々は、臨床研究の最初から最後までどの部分でも、困っている研究者がおられたら必要とされる支援を提供させていただきます。正しい結果を導くための努力を惜しみません。

いつでもご相談にお越しください。



学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



生命倫理監理室の紹介

4月より臨床研究センターから審査部門が独立し、生命倫理監理室が新たに設置されました。奈良県立医科大学で行われる研究及び診療を行う研究者や関係者が患者の生命・健康及び人権を尊重して実施することを支援しています。それにより、患者への最善の医療の提供が保障されることを目的に運営しています。

生命倫理監理室は医の倫理審査委員会（REC）・治験審査委員会（IRB）・臨床研究審査委員会（CRB）の3つの委員会事務局を所管しています。また、偶数月には「研究倫理講習会」を開催し、研究倫理に関する教育研修を行っています。

生命倫理監理室は研究計画書や説明文書などの資料をもとに倫理的・科学的に適正かどうかについて審査の支援をしています。そして、研究者の資質をも含めて当該施設で実施するのが適切かどうかを判断していくことで研究の発展に努めたいと思います。

多くの研究の提出をお待ちしております！！



看護部情報管理室の紹介

4月1日から看護部に「情報管理」という新しい部署ができました。5月1日に新電子カルテシステムが稼働しましたが、運用の周知・業務整理を行わなければ現状の問題点は解決しません。これらを整理しつつ、電子カルテシステムと同時に稼働

した患者適応型電子パスシステム「Team Compass (PCAPS)」をふくめ今後の奈良医大における看護情報の在り方について企画・実践していきます。新しい部署ですがどうぞよろしくお願い致します。



情報管理室メンバー



いつもの風景

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会の取り組み

会長 国分 清和

Wikipedia で調べるまでもなく同窓会には大きく分けて二つの意味がある。ひとつはその学校の卒業生同士が当時を振り返るために集まるイベントであり、いわゆる「懇親会」ともうひとつはその学校の卒業生により組織される非営利団体であり、いわゆる「後援会」である。現在私は後者の同窓会の会長を務めています。後援会のような組織とは言っても母校を後援する組織のみならず母校に対して卒業生の総意を示す団体であると考えています。そのそれぞれの取り組みについて簡単に紹介させていただきます。

学報 68 号には学長を旗手に大学の未来への飛躍のための取り組みが詳しく書かれていますが、大学独法化以来これらの事業を遂行するためには多額の資金を自前で確保する必要があります。このためにはふるさと納税を利用した「未来への飛躍基金」があります。同窓会では一致団結して少しでも多くの基金



を集めることが現在の活動の大切なことの一つです。この学報を読まれるのは大学関係者のみならず患者さまや、一般の方々もおられると思いますので同窓会とともにご協力いただければ幸いです。

母校に対して希望しますのは臨床、研究、行政あらゆる分野においてノーベル賞に匹敵する後輩の排出であります。この目的達成のためにはあらゆる協力を惜しまない覚悟です。このためには能力のみならず体力、胆力の養成が同程度に必要と考えており、近い将来医学科教養教育部門の移転時にはこの目的に沿った大学となるよう具申してまいりたいと考えています。

近鉄橿原線の奈良医大駅設置は長年の悲願であり学生、職員のみならず通院する患者様への利便性の飛躍的向上が見込まれるプロジェクトであり、今井町入り口である八木西口を残しながら医大駅も設置できるよう具申してまいりたいと考えています。

ここに記載いたしましたのは活動のほんの一部ですが役員一同母校の発展を夢見て頑張っておりますのでご協力よろしくご協力申し上げます。

医学科昭和62年卒業生の同窓会が開催されました

令和元年 5 月 25 日 奈良ホテルに於いて、昭和 62 年卒業生の初めての全員同窓会を行いました。57 名の参加があり、最近の奈良医大の発展を知らない先生も多く、今後の定期開催も決定し実りの多い会となりました。



Campus News

4.1

MBT ウェアラブル端末の実証実験開始

MBT 研究所では、大学発ベンチャーである MBT リンクや近鉄グループホールディングスとともに、近鉄沿線住民を対象にヘルスケアサービスの実証実験を 4 月から開始しました。

この実証実験は、IoT を駆使して、ウェアラブル端末などにより、一人ひとりのバイタルデータや生活環境データを収集・分析し、医学的根拠のある生活アドバイスを提供する「パーソナル健康サービス」や、家族等にバイタルデータの異常を伝える「異常値通知サービス」を提供するものです。

さらには、生活アドバイスに即した料理レシピを提供し、食材を購入し易いようネットスーパーにもリンクするサービスも行います。

実証実験のあと、その結果や効果を検証したうえで、新たなヘルスケアサービスとして実用化を進める予定です。



住民への実証実験説明会

腕時計型ウェアラブル端末

4.4

新入生オリエンテーションを行いました

医学科では 113 名、看護学科では 85 名の新入生を対象に、4 月 4 日から 5 日にかけて先生方による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行いました。

また、医学科は 9 日、看護学科は 8 日に新入生交流会を行い、学生は各グループに分かれて自己紹介を行うとともに先輩・後輩との交流を深めました。医学科看護学科とも、新入生同士として先輩との交流が深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。



医学科オリエンテーション



看護学科オリエンテーション

4.10

Case Western Reserve University から Kingman 教授が来学されました

Case Western Reserve University (米国) から Kingman Strohl 教授が本学を訪問されました。Kingman 教授は呼吸生理学をバックグラウンドとした基礎研究・臨床研究を長年推し進めてこられた呼吸器領域の世界的オピニオンリーダーの一人です。

2018 年度のリサーチ・クラークシップ海外派遣プログラム (医学科 2 年生対象) では山内基雄准教授 (呼吸器内科学) のご紹介により、渡邊真子さん (医学科 3 年生) が Kingman 教授の Sleep Clinic で診療を見学しており、今後の交流の広がりが期待されます。

学長表敬訪問に続く呼吸器内科学講座主催の呼吸器セミナーでは “Insights since FDA Approval of Hypoglossal Nerve Stimulation for the Treatment of Obstructive Sleep Apnea” と題して Kingman 教授が講演されました。



呼吸器セミナーの様子



左より細井理事長・学長、Kingman 教授、渡邊さん、山内准教授

4.18

MBT オープンミーティングの開催に向けて

今年度初めてとなる MBT 研究所運営会議を学長室会議室で行いました。運営会議は、MBT の研究や取り組みの統合調整を図るため、毎回白熱した議論が交わされています。今回の会議では、5 月 24 日に東京で開催する MBT オープンミーティングの取組みについて協議しました。なかでも、いかに広く参加者を集められるのか、広報や情報発信についての話し合いが尽きませんでした。MBT 研究所では、積極的に研究成果の発表や PR のための企画を行っていますので、紹介して参ります。MBT は、今後ますます日本全国、世界に活躍の場を広げていきますので、ご期待ください。



MBT 研究所運営会議の様子

5.7

フエ中央病院の耳鼻科部長、国際部副部長が本学を訪問されました

本学の耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座は、JICAの2015年度「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」として採択された「ベトナム国難聴者聴覚検査・診断機器普及促進事業」に協力し、16年4月から今年4月の2年間にわたり、ベトナム最大の病床数を備えるバックマイ病院の研修・教育に協力してきました。その実績により、5月7日、ベトナムのフエ中央病院耳鼻科部長、国際部副部長が本学を視察するべく訪問されました。

学長表敬訪問では両国の医療事情について活発な意見交換が行われ、大変有意義な時間となりました。



学長室にて

5.10

手作り「布絵本」を寄贈していただきました

奈良智辯学園高校の生徒たちが、家庭科の授業で作製している「布絵本」。この「布絵本」10冊を寄贈していただきました。やわらかい布で作る「布絵本」は5年前から家庭科の授業で生徒たちが自分たちで考えて作成しています。1針、1針手作りされた「布絵本」は、色彩が豊かで、イラストや文字が大きく手で触れて感覚を確かめることができます。そこで、令和元年5月10日(金)に古家病院長、高橋看護部長、認知症ケア委員会のメンバー、智辯学園の生徒3名、教員2名出席で贈呈式を行いました。その贈呈式の中では、患者さんに絵本を読み聞かせを行いました。

患者さんは「布絵本」を手に取り次々とみて、自分の思い出を生徒さんに30分間語りました。参加したみんなに笑顔があふれ、とても暖かい時間が流れました。寄贈された「布絵本」を見ることで脳の活性化が期待され、今後、治療や看護ケアに良い影響が出ると期待しています。

この贈呈式は「おはよう関西」「ならナビ」で放映されました。



贈呈式後の集合写真

5.15

台湾 国立中正大学 訪問団が来学されました

台湾中正大学 郝鳳鳴副学長、嘉義市衛生局 廖育璋副局長、他12名の訪問団が来学されました。

本学からは、細井理事長・学長と梅田研究教授が、ミーティングに参加され、交流を深めるとともに、MBT (Medicine Based Town) の意義、これまでの実績、今後の取り組みなどについて、活発な意見交換がなされました。



細井理事長・学長と訪問団との意見交換の様子



ミーティング後の集合写真

5.16

MBT ビジネスマッチングを開催しました

本学附属病院においてMBT ビジネスマッチングを開催しました。MBT 研究所では、本学の医学知識で産業創生を図るため、各教室と企業等との連携を推進しています。

当日は奈良先端科学技術大学院大学やけいはんなからの参加をいただき、本学との共同研究やMBTについて活発な意見交換がありました。



ビジネスマッチングの様子

5.24

MBT オープンミーティングを開催しました

昨年度に続き、MBT 活動の浸透・普及を狙い、5月24日に東京の日本生命日比谷ビルで「MBT オープンミーティング 2019in 東京」を開催しました。

当日は、MBT の活動紹介として、細井理事長・学長から開会の挨拶と全国に広がりつつある MBT の活動についての講演があり、その後 MBT 研究所の梅田副所長からバイタルデータ等を集約するシステムの紹介と海外にも展開する MBT の活動報告がありました。MBT 開発紹介については、本学麻酔科の恵川講師が、開発中の心電図や他のすべての情報を表示できる視覚的にわかりやすく拡張性の高いスマートデバイスを用いたスマートモニタリング「Safety-Net MBT」を紹介しました。

特別講演では、2025 年万博基本構想検討会議委員の嘉名光市先生（大阪市立大学大学院教授）より「大阪・関西万博の目指すものと MBT への期待」と題して、2025 年万博の都市デザインのテーマや方向性の紹介がありました。また、いま世間が求めている都市空間は、コンパクトで歩きたくなるような魅力的な空間であり、健康増進を図るライフスタイル概念への転換が必要であるとして講演いただきました。

講演後には、開発中の生体情報モニター等のシステムデモの実演などがあり、参加者は興味深く製品説明を聞き入っていました。首都圏への奈良医大の取り組みを広めることができ、盛況のうちには終わりました。今後も MBT の普及に向け全国展開していきます。



活動報告を行う細井理事長・学長



嘉名先生ご講演の様子



システムデモの様子



会場の様子

5.30

5.31

公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しました

5月30・31日の2日間において、公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会を開催しました。今年度については、他学における研究費不適正支出の実例を例にした研究費の適正使用の説明を中心に会計規程施行細則の改正と改正に伴う経理事務に重点をおいた説明会としました。なお、各所属には、コンプライアンス教育を徹底するため「公的研究費不正防止計画実施状況報告書」の提出も求めています。

説明会においては、220人を超える多数の研究者、教室職員等に参加いただき、公的研究費の適正使用や経理事務等について、熱心に耳を傾けていただきました。

今回の説明会資料については、研究推進課の学内HPに資料や様式がありますので、ぜひご利用ください。
<http://www.naramed-u.ac.jp/gakunai/soshiki/kenkyu/yoshiki/kakushuyoshiki.html>



説明会の様子

5.30

第1回 奈良臨床漢方医学セミナー（循環器領域編）を開催しました

「循環器領域と漢方薬」と題し、福原 慎也先生（えのもとクリニック副院長）にご講演いただきました。

福原先生ご自身が漢方医学に興味を持たれたきっかけから、循環器領域において注意すべき漢方薬、「現代版クリニカルパール」とも言える具体的で分かりやすい処方方の基準、高齢の患者さんに対する漢方の取り入れ方のアイデア等、診療ですぐに役立つ知識が学べる充実した講義内容で、参加者の方々は熱心にメモを取られていました。

今回は、西洋薬だけでは解決できない病気の症状に対して、循環器領域（循環器疾患）ではどのように漢方薬を活用しているかに留まらず、より広い視野をもって診療にあたることの大切さを学べる機会にもなりました。次回は、産婦人科領域編を予定しています。



福原先生



会場の様子

5.30

MBT の研究成果発表について

MBT の研究成果発表について議論するため MBT 研究所運営会議を学長室会議室で行いました。今回の会議では、6月12～14日の幕張メッセ（APPSJAPAN）でのブース展示や6月20～21日の産学連携学会 奈良大会でのオーガナイズドセッション「MBT（医学を基礎とするまちづくり）」での成果発表についてディスカッションを行いました。

今後も積極的に MBT の成果発表を行っていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



真剣なディスカッション

6.8

奈良県立医科大学・同志社女子大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました

6月8日に本学と同志社女子大学の共催による合同講演会をならファミリー内の秋篠音楽堂において開催しました。

当講演会は同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「ストレスを味方にするための日常生活でできるコツ」をテーマに、医師の立場から本学精神医学講座北村聡一郎助教の「高齢者の対人コミュニケーション」と題して、音楽療法士の立場から同志社女子大学学芸学部音楽学科の北脇歩助教の「音楽の力を処方する音楽療法」と題してそれぞれ講演いただきました。

講演会では、それぞれの立場からわかりやすく説明をいただき、会場には、県内外から250名を超える参加があり、テーマに関する関心の高さを伺うことができました。



車谷副学長による開会の挨拶



講演を行う北村助教

実演を行う北脇助教
(同志社女子大学)飯田学長(同志社女子大学)
による閉会の挨拶

講演会の様子



MBTの紹介

6.10

KAMPO 勉強会を開催しました

医療従事者向け特に研修医向けの「漢方レッスンことはじめ」と題してKAMPO勉強会を開催しました。この勉強会は昨年度からの取組みで、今回が2回目となります。

臨床研修センター長の赤井先生が司会を務め、漢方薬である「抑肝散」や「補中益気湯」について基本的な紹介の後、大和漢方医学薬学センターの三谷先生から、それらの漢方についての歴史や薬の効能・活用方法などご自身の経験談等のお話をされました。診療で役立つ知識が学べる充実した講義内容であり、参加された先生たちは熱心に三谷先生の講義を聞いておられました。



三谷先生の講演の様子



勉強会の様子

6.11

国立台湾大学から楊医師が本学を来学されました

国立台湾大学から楊卿堯医師(Dr. Ching-Yao Yang)が本学を訪問されました。国立台湾大学は国際的にもトップレベルの大学で、楊医師が所属される外科教室では基礎研究も盛んに行われています。

リサーチ・クラークシップ海外派遣プログラム(医学科2年生対象)では、庄雅之教授(消化器・総合外科学)のご紹介により、2017年度は大平原麗華さん、長田理瑚さん(医学科4年生)、2018年度は佐々木俊秀君(医学科3年生)を受け入れて頂きました。楊医師のご指導の下、ロボット手術、内視鏡手術といった最先端の外科手技を学びつつ、臨床データの解析、論文作成、特に本学との共同臨床研究をまとめ、完成することを具体的な目標としてAcademic Mind, Research Mindを涵養することを目指しています。

学長表敬訪問に続く消化器・総合外科学講座主催の講演会では“Analysis of long-term outcome and identification of the predictors of recurrence in patients with resectable pancreatic neuroendocrine tumors”と題して楊医師が講演されました。



講演会の様子

左より佐々木君、長田さん、庄教授、
細井理事長・学長、楊医師、大平原さん

6.16

大学院看護学研究科のオープンキャンパス2019を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを6月16日(日)に開催し、38名の参加がありました。

「看護学研究科長の挨拶」の後、「コースの概要の説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」、「施設見学」が行われました。

参加者からは、「教授と直接話をする事ができ、受験する覚悟が出来ました。」や「学生生活や実習に関する事もしっかりと聞いて良かったです。」などの感想が聞かれました。

令和2年度の入学試験は、8月26日(月)(二次募集:12月2日(月)*)に実施されます。

*一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



石澤看護学研究科長挨拶

6.13 ASUKA シンポジウム 2019 「再生医学における新展開」を開催しました

6月13日に、「ASUKA シンポジウム 2019 (Advanced Science for fUture in KAshihara)」[世話人代表:杉江和馬(脳神経内科学)、森英一朗(未来基礎医学)]を開催しました。日本国誕生の舞台といわれている「飛鳥・藤原」地区を語源として名称を付けました。また、「ASUKA」の文字の中には明日香の「明日」という、「『未来』を意識した研究を進めていく」という思いも込めました。第1回目に当たる今回のシンポジウムでは、「再生医学における新展開」というテーマを掲げ、「相

分離」「オルガノイド」「1細胞解析」「プロテオミクス」「MEA」などをキーワードに、最先端の研究内容について分野横断的なプログラムを用意しました。国際的に活躍する研究者にお集まり頂き、プログラムは全て英語での発表で、50名以上に参加(口演発表12演題、ポスター発表21演題)頂きました。本シンポジウムでは、異分野の先生方の発表・討論を通じて、新たな共同研究が生まれることを目指しており、今後も継続発展させていきたいと考えております。



受賞者報告

Winner Report

3.1 ~4 第28回日本有病者歯科医療学会

口腔外科学講座 助教 上田 順宏

この度、千葉で開催されました第28回日本有病者歯科医療学会学術集会におきまして「学会賞」を受賞致しました。演題名は「高用量骨吸収抑制薬を受けているがん患者のARONJ発症に影響する因子の検討」です。がん治療において重大な問題となっているARONJと歯科的介入について後方視的に検討した内容です。臨床に則した内容で受賞頂けたことより、さらに検討を発展させる必要があると感じました。本研究を行うに際しまして、桐田教授はじめ、ご指導またご支援いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。



3.28 奈良県警察本部より警察協力章を受章しました

法医学教室 教授(現名誉教授) 羽竹 勝彦

法医学教室の羽竹勝彦教授(現名誉教授)は、3月28日、奈良県警察本部にて警察協力章を受章されました。警察協力章は警察庁長官より民間人に授与される最高位の表彰であり、羽竹教授が長年にわたり解剖医として適切な鑑定を行い、犯罪捜査活動に多大な貢献をされたことに対して授与されました。



4.11

第78回日本医学放射線学会総会 2018年度栗林研究奨励賞を受賞しました

放射線医学教員 学内講師 市橋 成夫

この度日本医学放射線学会 2018年度栗林研究奨励賞を頂戴することができましたので、ご報告いたします。受賞の対象となりました原著論文はIn Vitro Quantification of Luminal Denudation After Crimping and Balloon Dilatation of Endothelialized Covered Stents (Cardiovasc Intervent Radiol. 2017 Aug;40 (8) :1229-1236) です。ドイツアーヘン大学留学中に行なった基礎研究の成果を論文化したもので、内部に内皮細胞膜を貼った血管用ステントをバルーン拡張やステントのカテーテル内充填を行い、内皮細胞層のダメージの程度を定量化しました。留学の機会を与えて頂いた吉川公彦教授、留学生活のアドバイスを頂いた田中利洋准教授、留学中に日常臨床を支えてくれた仲間達に感謝感謝です。



4.19

第107回日本泌尿器科学会総会賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、名古屋で行われた第107回日本泌尿器科学会総会において、『総会賞(前立腺癌:基礎部門)』を受賞いたしました。受賞演題は、「5-アミノレブリン酸経口投与が有する骨盤放射線療法における制癌効果の増強作用および正常臓器の保護作用」です。前立腺癌の根治治療として一翼をなす放射線療法では、尿路や直腸などの骨盤内正常臓器の被爆による副作用が問題となります。今後の臨床試験への足掛かりとして、5-アミノレブリン酸が制癌効果を維持しながらも正常細胞は保護しうることを前臨床研究の中で示すことができました。本研究の遂行にあたり、ご指導、ご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

4.12
~14

第59回日本呼吸器学会学術講演会で 学術部会賞優秀賞を受賞しました

免疫学 教授 伊藤 利洋

4月12日から14日に東京で開催された第59回日本呼吸器学会学術講演会におきまして、学術部会賞優秀賞を受賞しました。受賞演題は「特発性肺線維症に対する脂肪由来間葉系幹細胞療法への試み—新規モデルマウスによる検討」です。本演題は難治性の特発性肺線維症に対する脂肪由来間葉系幹細胞を用いた治療法の有用性を示した基礎研究であります。今後は本治療法の臨床応用を目指し、より一層研究に励む所存です。本研究にあたりご協力いただきました呼吸器内科学講座(室教授)ならびに胸部・心臓血管外科学教室(谷口教授・澤端教授)をはじめ、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

5.9
~11

第108回日本病理学会総会において 優秀発表賞を受賞しました

分子病理学講座 助教 岸 真五
大学院生 森 汐莉・森 拓也

5月9～11日に東京都東京国際フォーラムを会場に開催された第108回日本病理学会総会は、6,000名を超える参加者を集めて行われた病理学分野最大の学術集会です。若手研究者の研究活性化を目指して設けられている学生・研修医ポスター優秀発表賞には300演題近いエントリーが寄せられました。

岸真五君は「間葉系幹細胞からのオルガネラの移動は癌細胞の抗がん剤耐性に寄与する」、森汐莉君は「 ρ 細胞におけるエネルギー代謝と悪性形質との関連」、森拓也君は「中鎖脂肪酸が骨格筋組織と骨格筋細胞代謝に及ぼす影響」の演題でそれぞれ優秀発表賞を受賞しました。



Winner Report

5.10

「日本化学療法学会学術奨励賞」を受賞しました

微生物感染症学講座 講師 中野 竜一

5月10日に東京で開催された第67回日本化学療法学会学術集会において、日本化学療法学会学術奨励賞を受賞しました。受賞内容は「カルバペネマーゼNMC-A産生株の発現調節機構の解明」についてです。全く想像していなかった受賞だけに喜びもひとしおです。本研究に携わっていただいた研究室の先生方ならびに共同研究者の協力のお陰であり、心より御礼申し上げます。本受賞を励みに、臨床現場に貢献できるようより一層研究に邁進していきたいと思っております。



5.11

The 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver SocietyでBest ePoster awardを受賞しました

消化器・総合外科学 病院助教 吉川 高宏

5月11日に開催されたThe 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver Societyにおいて、Best ePoster awardを受賞いたしました。受賞演題名は、「Surgical technique and short-term outcomes of laparoscopic repeat hepatectomy」です。本演題は、従来困難とされてきた腹腔鏡下再肝切除の有用性を示したものであります。今後とも様々な臨床研究を通し、手術手技および肝臓の予後向上を目指していきたいと考えております。本受賞にあたり、ご指導いただきました庄教授はじめ、医局の先生方に深く感謝申し上げます。



5.23

第26回肝細胞研究会において優秀ポスター賞を受賞しました

5.24

内科学第三講座 診療助教 中西 啓祐

この度、5月23日～24日に開催された第26回肝細胞研究会において優秀ポスター賞を受賞しました。「Gut-Liver Axisに着目したNASH病態解明に向けての基礎的検討」というタイトルで、2つの動物モデルにおいて共通するNASH病態進展機序に関して発表しました。このような賞をいただき大変光栄に思っております。これを励みに今後とも日々精進していく所存です。御指導いただいた吉治教授、北出先生、鍛冶先生をはじめ、当教室の先生方に深謝いたします。



5.29

第26回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

今回の受賞者は、循環器内科学の岡山悟志学内講師、微生物感染症学の中野竜一講師の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

表彰式後、岡山の学内講師が「心臓MRIと心臓CTの撮像法の開発と、ビッグデータ解析の循環器医療への応用」、中野講師が「グラム陰性桿菌のβ-ラクタム薬耐性機構の解明」と題して講演が行われました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています。



前列：左より中野講師、細井学長、岡山学内講師
後列：左より矢野教授、斎藤教授

5.29

第8回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

当賞は、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設しました。

今回の受賞者は消化器・総合外科学講座の長井美奈子助教で、授賞式にて賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

授賞式後、長井助教により「脾切除後合併症低減および脾癌予後向上に関する基礎的・臨床的研究」と題した講演が行われました。



後列：左より車谷副学長、庄教授
前列：左より細井学長、長井助教

6.1

第224回日本内科学会近畿地方会で 若手奨励賞(最優秀演題賞)を受賞しました

脳神経内科学講座 後期研修医 清水 宏紀

6月1日に大阪市で開催された第224回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学脳神経内科学講座の清水宏紀後期研修医が、19題の発表の中から最も評価の高い最優秀演題賞を受賞しました。演題「心不全を契機に診断に至った抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の1例」は、当科と本学循環器内科、国立精神・神経医療研究センターとの共同研究による成果であり、抗ミトコンドリア抗体による骨格筋および心筋障害をきたす病態機序を考察する上で貴重な症例検討でした。本学会の若手奨励賞は、審査委員12名による厳正な選考により授与されたものです。若手医師にとっては今後の内科学診療および研究の大きな励みとなり、今後さらに研究の発展に貢献してくれるものと考えます。



6.6

横断的共同研究助成事業の 採択について

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業について、今年度は下記の研究課題が採択されました。

本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進するため、昨年度より横断的共同研究助成事業(旧特別共同研究助成事業)を実施しています。今年度は9件の応募があり、生理学第二堀江教授が研究代表者である共同研究が採択され、500万円が助成されます。

横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
生理学第二	教授	堀江 恭二	病態再現モデルの構築を基盤にした血友病の集学的研究	病理診断学 教授 大林 千穂 病理診断学 講師 藤井 智美 小児科学 准教授 野上 恵嗣 小児科学 助教 矢田 弘史 生理学第二 講師 坂野 公彦 生理学第二 助教 吉田 純子

6.11

令和元年度(第1回)若手研究者国際学会発表 助成事業 助成者決定(国際交流センター)

令和元年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
消化器・総合外科学	診療助教	中出 裕士
小児科学	診療助教	辻井 信之
泌尿器機能制御医学	大学院生	尾張 拓也

6.15

令和元年度 厳樫学術奨励賞の 表彰式が行われました(国際交流センター)

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、令和元年度厳樫学術奨励賞の表彰式が行われました。この賞は、母校の発展の一助とするため、海外において学術の研究、調査等に従事する者に対し、同窓会がその費用の一部を助成金として支給しているものです。

今回は、麻醉科学講座の寺田雄紀助教に授賞しました。令和元年6月から翌年の4月までの予定で、アメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校麻醉科に現在留学中です。



所属ラボのPIたちと(左から2番目がご本人)

Winner Report

特定行為研修 急性期コースを修了しました

C棟3階 小橋 郁美
C棟3階 松葉 晃平

特定行為研修で得た学びを基盤に、日々試行錯誤しながら実践を行っています。特定行為の理想は、医学的な視点と看護的な視点の両方を持ち、患者・家族の状態をアセスメントする能力を高め、よりタイムリーかつ効率的に医療・看護を提供することであると考えます。今後も学び続ける姿勢を持ち、医療チームの一員であることを自覚しながら、医師ではなく看護師が医行為を行う意味を考え、患者アウトカム向上を目指して活動していきたいと思っています。



特定行為研修 在宅コースを修了しました

腫瘍センター・化学療法室 宮本 拓
中央放射線部 児玉 佐和

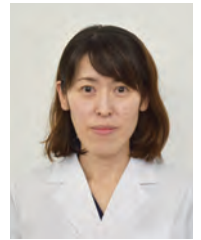
特定行為研修を受講して、今までの看護に医学的視点が加わったことで、患者様をより深く観察し、全体像をとらえる必要性を再認識できました。特定看護師は、タイムリーな医行為の実践だけでなく、その先の生活支援への介入も重要な役割の一つと考えます。4月から、IVRでドレーン留置された患者様の在宅療養への介入を始めています。自分の知識と実践の統合に加え、医療者間の連携の重要性を実感しつつ、日々奮闘しています。



日本肝胆膵外科学会 International Observership Program による留学制度に選出されました

消化器・総合外科学教室 助教 長井 美奈子

この度、日本肝胆膵外科学会の International Observership Program による留学制度に選出していただき、今夏より隣臓外科で世界一である Johns Hopkins 大学に留学する貴重な機会をいただきました。推薦して下さった庄教授はじめ、留学期間中サポートして下さる教室の先生方に感謝いたします。限られた時間の中で、できるだけ多くのことを学び、成果をあげられるように全力で取り組みたいと思っています。



令和元年度奈良県看護功労者知事表彰を受賞して

看護部 B棟5階 看護師長 田中 麻理
看護部 入退院支援センター 看護師長 小島 裕美子

この度は、令和元年度奈良県看護功労者知事表彰を受賞させていただきました。表彰のお話を聞いた時には、自分自身が表彰に値する活躍をしてきたのかと戸惑いもありましたが、壇上で表彰状を手にし、来賓や参加者の皆さんからお祝いの言葉をいただき、感激と嬉しさが胸一杯になりました。看護学校を卒業し約36年、看護の道を元気に働き続けることができたのも、多くの患者様やご家族との出会い、上司や先輩方、同僚や友人の支えのお陰だと感謝しております。これからもこの賞に恥じないように、看護師として日々努力していきたいと思っています。

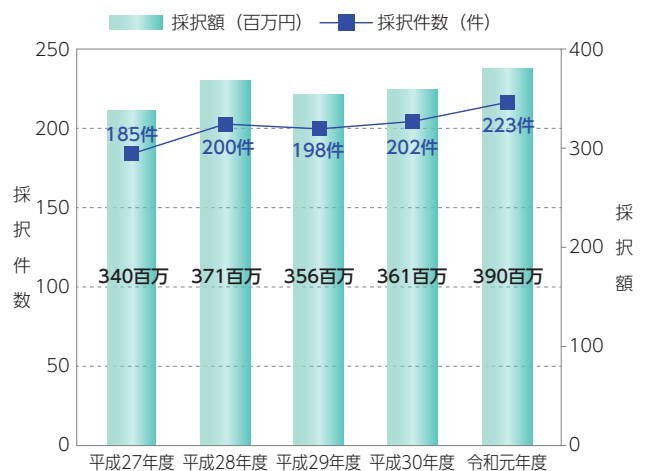


令和元年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

令和元年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定しました。

令和元年5月1日現在の状況は表のとおりです。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
令和元年度	223	390,040	300,280	89,760
平成30年度	203	360,620	277,400	83,220
平成29年度	198	355,990	273,970	82,020
平成28年度	200	371,033	285,710	85,323
平成27年度	185	340,304	262,184	78,120



令和元年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究 (研究領域提案型)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学的情報とリンクした単一細胞遺伝子発現プロファイル動態の解明	2018～2022
新学術領域研究 (研究領域提案型)	精神医学	講師	牧之段 学	幼少期社会的経験が形づくる前頭前野・視床回路の同定	2019～2020
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	データ科学・疫学・臨床医学の融合による日本の保険診療情報 (NDB) の全解析	2018～2022
基盤研究 (B)	分子病理学	教授	國安 弘基	Claudin-4 標的化抗体によるがん治療法確立の基盤研究	2016～2019
基盤研究 (B)	免疫学	教授	伊藤 利洋	呼吸器感染症がもたらす慢性呼吸器疾患増悪の分子基盤の解明	2016～2019
基盤研究 (B)	精神医学	講師	牧之段 学	自閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み	2016～2019

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (B)	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	多能性幹細胞を用いた内耳有毛細胞の創生から細胞移植治療へ	2016～2019
基盤研究 (B)	化学	教授	酒井 宏水	酸化ストレスに対する防御機能を有する人工赤血球製剤の創製と体内評価	2017～2019
基盤研究 (B)	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病A分子病態の解明と第VIII因子高機能化に関する研究	2017～2019
基盤研究 (B)	看護学科 成人急性期看護学	教授	石澤美保子	在宅看護における医療関連機器圧迫創傷の予防および管理方法の構築	2017～2020
基盤研究 (B)	精神医学	教授	岸本 年史	多次元解析による神経性無食欲症のサイコバイオティクスの同定：治療薬の創発に向けて	2018～2021
基盤研究 (B)	放射線腫瘍医学	教授	長谷川正俊	高LET放射線と抗VEGF抗体の併用によるグリオーマ幹細胞制御機構の解明	2018～2021
基盤研究 (B)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	EGFRvIII 特異的 CAR 発現 iPS 由来 NK 細胞を用いた膠芽腫治療の基盤的研究	2018～2020
基盤研究 (B)	第一解剖学	教授	西 真弓	新規行動解析システムによる幼少期生育環境が脳及び行動に及ぼす影響の神経基盤の解明	2019～2022
基盤研究 (B)	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	慢性腎臓病に合併する心不全発症におけるアフターロードミスマッチの分子機序の解明	2019～2021
基盤研究 (B)	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	難治性消化器癌に対する治療抵抗性克服による新規集学的免疫治療戦略の開発	2019～2022
基盤研究 (B)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	術後生活機能障害の5年間追跡調査とプレハビリテーションプログラムの有効性評価	2019～2023
基盤研究 (B)	疫学・予防医学	准教授	大林 賢史	光曝露が糖尿病・心血管疾患・がん・認知症の発症および予後に及ぼす中長期影響	2019～2023
基盤研究 (B)	看護学科 在宅看護学	教授	小竹久実子	喉頭全摘出者のQOL向上へつなげる看護体制の構築：RCTによる縦断的介入	2019～2022
基盤研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	准教授	坂東 春美	禁煙困難な状況下でも出産後喫煙しない母親（ポジティブデピアンズ）はなぜいるか？	2015～2019
基盤研究 (C)	看護学科 基礎看護学	教授	松田 明子	外来RA患者のBIO投与に関する臨床薬理学分野の看護実践教育プログラムの構築	2016～2019
基盤研究 (C)	先端医学研究機構 動物実験施設	教育教授	久保 薫	シンプライオティクスによる乾癬の予防・治療に関する研究	2017～2019
基盤研究 (C)	化学	助教	松平 崇	高分子鎖を介して多重連結されたヘモグロビン集合体の合成と体内酸素運搬機能の評価	2017～2019
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	スポーツの種類や選手個人の特性を考慮した重力感受性トレーニング法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謙子	視床下部新規領域が司るburying行動と自閉症における常同行動との関係性	2017～2019
基盤研究 (C)	第一生理学	准教授	豊田ふみよ	イモリ性フェロモン情報処理メカニズムの解明	2017～2019
基盤研究 (C)	小児科学	特任助教	能村 卓慈	piRNAをガイドとしたレトロトランスポゾン・遺伝子発現制御機構の解析	2017～2019
基盤研究 (C)	化学	准教授	山本 恵三	カルバペネマーゼの活性上昇に関するアミノ酸残基の網羅的特定と立体構造変化の解析	2017～2019
基盤研究 (C)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	尺度開発理論と疫学の融合による行動嗜好のスクリーニングテストの統合的開発	2017～2019
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任准教授	富岡 公子	どんな社会参加が健康長寿につながるのか？-地域前向きコホート研究より-	2017～2019
基盤研究 (C)	医療情報部	准教授	玉本 哲郎	放射線治療の業務の標準的な見える化と遠隔での安全な治療実施支援法の確立	2017～2019
基盤研究 (C)	法医学	講師	工藤 利彰	新規メディエーター誘導型内皮依存性過分極因子を介するエタノールの血管機能調節機構	2017～2019
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	准教授	山内 基雄	多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性-呼吸管理から生命予後改善をめざす-	2017～2020
基盤研究 (C)	第三内科学	教授	吉治 仁志	Drug repositioning による肝炎患進展抑制治療法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	第三内科学	医員	野川 隆一	NASH発症進展に関わる腸内細菌の影響とエクオールの効果	2017～2019
基盤研究 (C)	輸血部	助教	早川 正樹	重症大動脈弁狭窄症に合併する消化管出血のフォンビレブランド因子による病態解析	2017～2019
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	講師	本津 茂人	肺線維症合併肺癌に対する制御性T細胞を標的とした新たな治療戦略の探索	2017～2020
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	講師	秦野 修	質量分析イメージングと標的プロテオミクスによるステロイドホルモン産生異常の解析	2017～2019
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 竜一	薬剤耐性肺炎桿菌感染症の制御を目指した耐性菌出現機構の解明	2017～2019
基盤研究 (C)	小児科学	講師	武山 雅博	APCおよびPSによる第VIII因子制御機構の解明および新規血友病製剤への応用	2017～2019
基盤研究 (C)	小児科学	博士研究員	志田 泰明	血流下での血管内皮細胞の応答機構と血液凝固第VIII因子の機能発現	2017～2019
基盤研究 (C)	小児科学	助教	荻原 建一	フォン・ウィルブランド因子D'D3ドメイン-塩基多型の分子生物学的解析	2017～2019
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	ウイルス由来microRNAに着目したDIHSの病態解明と新規診断法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	看護学科 人間発達学	教授	飯田 順三	小脳構造と協調運動および自閉スペクトラム症諸症状との相関解析	2017～2019
基盤研究 (C)	放射線医学	講師	西尾福英之	ナノドラッグデリバリーシステムと分子イメージングを融合させた新規IVR治療の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	本山 靖	前頭眼野 (FEF) 刺激による術中誘発眼球運動モニタリング (PEEM) の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	古川 彰	骨癒合性を付与したPEEK製脊髄インプラントの研究	2017～2019
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	准教授	河村 健二	生体内誘導骨形成膜とハイブリッド人工骨の融合による新規骨再建法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	藤間 保昌	障害骨組織における再生遺伝子Regの発現動態の解析および骨再生促進法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	寄附講座手の外科講座	教授 (寄附講座)	面川 庄平	細胞外マトリックス (ECM) シートを用いた難治性偽関節の低侵襲治療法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	泌尿器科学	学内講師	鳥本 一匡	膀胱における尿再吸収機構の解明 - 夜間頻尿治療への応用を目指す研究 -	2017～2019
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	馬淵 誠士	骨髄由来免疫抑制細胞と卵巣癌幹細胞による癌免疫逃避機構の解明とその克服	2017～2019
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	新納恵美子	HE4とTFPI2の組み合わせによる卵巣癌細胞癌早期発見法	2017～2019
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	西村 忠己	軟骨伝導補聴器のハウリングのメカニズムの解明とその防止	2017～2019
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	耳鳴発生時の内耳細胞内分子動態の解明と内耳を舞台とした新規治療法の開発	2017～2019
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	太田 一郎	再発頭頸部癌に対する薬物中性子捕捉療法標準治療化におけるバイオマーカーの探索	2017～2019
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	上村 裕和	急性アルコール中毒時のNETs形成に及ぼす影響 - 敗血症増悪機構の解明 -	2017～2019
基盤研究 (C)	法医学	准教授	粕田 承吾	TANGOによる口腔癌の転移前ニッチ形成機構の解明	2017～2019
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	世平 智則	ラン分光法を用いた新たな早期口腔癌診断システムの開発	2017～2019
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	松末友美子	口腔がんに対するリンパ球と分子標的薬を併用した新規免疫細胞療法確立	2017～2019
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	玉置 盛浩	分娩施設から遠方居住の妊産婦へのケアプログラム開発と電子母子手帳による効果の検証	2017～2019
基盤研究 (C)	看護学科 母性看護学	教授	五十嵐裕子	垂直眼球運動系の神経積分器における持続的活動を生成するための神経回路メカニズム	2018～2020
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	GABA神経伝達に特化した新しいアストロサイト集団の同定とその機能解析	2018～2020
基盤研究 (C)	第二解剖学	教授	藤井 明生	膀胱癌特異的なマイクロRNAおよび遺伝子発現機序に基づいた病理組織学的診断の確立	2018～2020
基盤研究 (C)	病理診断学	講師	藤中 智美	脾臓腫瘍外造血制御とその破綻の分子機構解明と造血幹細胞培養系の確立	2018～2020
基盤研究 (C)	小児科学	特任助教	小田 朗永	HLA-Fを標的とした新規がん免疫療法およびがん診断マーカー開発	2018～2020
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 (下嶋) 典子	癌の増大と転移へのADAMTS13/VWF因子の影響	2018～2020
基盤研究 (C)	総合医療学	教授	西尾 健治	切除不能・再発肺癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた脾臓注療法開発	2018～2020
基盤研究 (C)	放射線医学	准教授	田中 利洋	切除不能・再発肺癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた脾臓注療法開発	2018～2020

Winner Report

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	RI 実験施設	准教授	菓子野元郎	遅発性活性酸素を抑制するがん細胞特異的因子は放射線治療の標的となりうるか	2018～2020
基盤研究 (C)	寄附講座血友病教育講座	助教 (寄附講座)	矢田 弘史	中等症・重症血友病Aにおける第Ⅷ因子の凝血学的特性に基づく新規治療戦略の開発	2018～2020
基盤研究 (C)	小児科学	野上 恵嗣		血液凝固におけるⅧ因子制御軸の解明と血友病A及び血栓性疾患の新規治療薬への応用	2018～2020
基盤研究 (C)	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	心筋疾患に対する新たな臨床応用可能な核酸医薬の開発と評価	2018～2020
基盤研究 (C)	臨床研究センター	講師	笠間 周	心臓交感神経イメージング法を用いた右心不全に対する治療効果判定および予後評価	2018～2020
基盤研究 (C)	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	慢性腎臓病高齢者を対象とした認知機能障害と動脈硬化に関する縦断的コホート研究	2018～2020
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北畠 正大	自己抗体産生におけるインターフェロン誘導性ヒストン修飾酵素 SETDB2 の機能解明	2018～2020
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	池田 直也	トリプルネガティブ乳癌における新規免疫不活化経路阻害分子探索および治療への展望	2018～2020
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	助教	安川 元章	肺癌手術症例における hybrid E/M の臨床病理学的探索	2018～2022
基盤研究 (C)	麻酔科学	講師	林 浩伸	胸部大動脈人工血管置換術中のレーザーパペックルフローグラフィーによる眼血流測定	2018～2021
基盤研究 (C)	集中治療部	病院教授	井上 聡己	スーパーオキシドリッチ環境が脳虚血再還流に与える影響	2018～2021
基盤研究 (C)	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	骨・肝・脂肪の臓器連関の視点からみた糖尿病性骨粗鬆症における組織因子の役割の解明	2018～2020
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	小川 憲二	CD44 のバリエーションフォームをターゲットとした子宮内膜症の新規治療法の確立	2018～2020
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	子宮内膜症の微小環境における酸化還元反応のバランス変化に基づく発癌仮説の構築	2018～2020
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	北野 公一	メニエール病診断法の開発ー内リンパ水腫の新しい評価法の確立ー	2018～2020
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	山下 哲範	新規耳鳴治療のための耳鳴動物実験モデルの確立	2018～2020
基盤研究 (C)	眼科学	教授	緒方奈保子	眼の加齢性変化と全身因子、生活環境、QOL	2018～2020
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	山本 一彦	口腔癌における反復配列 RNA の発現と機能の解明	2018～2020
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	即時荷重インプラントの荷重下で生じるマイクロモーションの定量的予測と最適治療指針	2018～2020
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	栗原 都	MIA2 関連シグナルを標的とした口腔癌の分子診断・治療の新展開	2018～2020
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顎顔面の形態発生を制御する新規シグナル伝達機構	2018～2021
基盤研究 (C)	看護学科 成人慢性期看護学	講師	升田 茂章	外来化学療法を受ける患者の手足症候群を予防するための看護ケアプログラム開発	2018～2020
基盤研究 (C)	看護学科 在宅看護学	講師	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断の実態とプロセス	2018～2020
基盤研究 (C)	看護学科 成人慢性期看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態と関連する要因	2018～2020
基盤研究 (C)	看護学科 老年看護学	教授	澤見 一枝	認知症予防における発見的介入：居宅や施設を訪問して介入する人材の養成と効果の検証	2018～2022
基盤研究 (C)	リハビリテーション科	病院教授	藤井 顕	骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	2018～2021
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	城井 澄	がん性サルコペニアに対する特異的マーカーの確立と HMGB1 標的化による抑制	2018～2020
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	抑制性神経回路特異的なアストロサイトの同定とその機能解析	2019～2021
基盤研究 (C)	第二解剖学	助教	竹村 晶子	高脂肪食摂取による肥満と脳の炎症～マクロファージに着目して～	2019～2021
基盤研究 (C)	生体分子不均衡制御学 共同研究講座	助教 (共同研究講座)	Wiriyasemkul Pattama	Molecular mechanism of the pathogenic protein interaction at the C-terminus of amino acid transporter b0,+AT/SLC7A9 in Japanese-type cystinuria	2019～2021
基盤研究 (C)	病理診断学	助教	伊丹 弘恵	悪性中皮腫に発現する HEG1 の制御に関わるマイクロ RNA の探索と分子機序の解明	2019～2021
基盤研究 (C)	第二解剖学	講師	田中 達英	痛覚鈍麻マウスを用いた順遺伝学的スクリーニングによる新たな疼痛制御因子の同定	2019～2021
基盤研究 (C)	脳神経内科学	講師	桐山 敬生	ヒト脳オルガノイドを用いた神経変性疾患を引き起こすリピーター病の病態解析	2019～2021
基盤研究 (C)	精神医学	学内講師	鳥塚 通弘	マクロファージとヒト iPS ニューロン共培養系による統合失調症・ASD 病態解析	2019～2021
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	芳野 浩樹	社会的隔離モデルによる社会性の神経回路の同定 内側前頭前野一橋一小脳を中心に	2019～2021
基盤研究 (C)	未来基礎医学	特別研究員	小橋川新子	遅発性活性酸素種抑制による正常細胞の防護	2019～2022
基盤研究 (C)	放射線医学	教授	吉川 公彦	下肢動脈カルシウムスコアと PAD 治療予後に関する前向きコホート研究	2019～2021
基盤研究 (C)	放射線医学	助教	正田 哲也	肝細胞癌 TACE における多孔性ガラス膜新規乳化石の製品化に向けた開発	2019～2021
基盤研究 (C)	小児科学	助教	石原 卓	凝固線溶バランスを基盤とした小児がん血栓症に対する新規テララーメード治療の確立	2019～2021
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	助教	熊本 竜	肺線維症患者に対する間葉系幹細胞療法の臨床応用を目指した有効な新規マーカーの探索	2019～2022
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	宮川 史	SLE モデルマウスにおける炎症性単球の病態への関与の解明	2019～2021
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	若月 幸平	消化管虚血再還流障害による癌転移促進のメカニズムの解明と転移抑制治療への応用	2019～2021
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	博士研究員	右田 和寛	消化器癌進展における E3 コピキチンリガーゼ発現異常の役割解明	2019～2021
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	北東 大督	T 細胞不活化経路をターゲットとした腫瘍免疫療法と抗腫瘍薬を併用した新規治療の開発	2019～2021
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	講師	久下 博之	肛門病変検体を用いた T 細胞不活化によるクローン病新規免疫療法探求	2019～2021
基盤研究 (C)	救急医学	助教	川井 廉之	敗血症における原因菌の迅速同定技術の開発	2019～2021
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	中川 一郎	メラトニン受容体を介したミトコンドリア膜電位制御のメカニズム	2019～2021
基盤研究 (C)	整形外科	教授	田中 康仁	間葉系幹細胞シートを用いた神経束移植における新規治療法の確立	2019～2022
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター MFICU	助教	吉元 千陽	MR スペクトロスコピーを用いた子宮内膜症の悪性化を早期に予測する新規検査法の確立	2019～2021
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	常見 泰平	妊娠高血圧症候群の胎盤形成におけるインプリンティング遺伝子の関与	2019～2021
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	長安 実加	PIK3CA 遺伝子変異に対する合成致死候補の検索	2019～2021
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	成瀬 勝彦	Danger Signal 抑制による HDP 悪化遅延と新生児周産期予後の改善	2019～2021
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	森本 千裕	ABR を用いた新しい軟骨伝導補聴器の装用効果評価法	2019～2021
基盤研究 (C)	めまいセンター	病院教授	山中 敏彰	下肢足圧の中心動揺と荷重量による定量的体平衡検査法の開発	2019～2021
基盤研究 (C)	眼科学	講師	吉川 匡宣	緑内障が生体リズムへ与える影響の検討	2019～2021
基盤研究 (C)	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	DNA 修復経路と細胞内物質輸送を標的とした口腔がん治療法の開発	2019～2022
基盤研究 (C)	産婦人科学	准教授	川口 龍二	帝王切開術における選択的・個別的な肺血栓症予防効果の検証と医療経済的評価	2019～2021
基盤研究 (C)	看護学科 成人急性期看護学	助教	佐竹 陽子	救急領域の終末期における緩和的創傷ケアの構築	2019～2021
基盤研究 (C)	看護学科 小児看護学	講師	山田 晃子	保護者と子どものかかりつけ医との対話を促進するためのモバイル手帳開発	2019～2022
基盤研究 (C)	保健体育	教育教授	石指 宏通	血栓形成関連因子の変動からみた運動強度閾値の季節・日内変動	2019～2021
基盤研究 (C)	整形外科	学内講師	小川 宗宏	早期軟骨病変に対する 3 次元軟骨定量評価法に関する研究	2019～2021
挑戦的研究 (萌芽)	第一解剖学	教授	西 真弓	虐待が繰り返される神経基盤の解明	2017～2019
挑戦的研究 (萌芽)	分子病理学	教授	國安 弘基	骨格筋で癌を阻害する一食品と運動のパッケージによるエネルギー代謝介入効果の検討	2017～2019
挑戦的研究 (萌芽)	第二生理学	教授	堀江 恭二	新規長期 1 細胞追跡法を用いた全能性状態の継時的計測と全能性幹細胞の樹立	2018～2019

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
挑戦的研究 (萌芽)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	始原生殖細胞における DNA メチル化リプログラミングの人為操作技術の開発	2018～2020
挑戦的研究 (萌芽)	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	肺癌に対する CD200 を標的とした小分子化合物の探索と新規治療戦略の開発	2019～2020
若手研究 (B)	口腔外科学	学内講師	柳生 貴裕	細胞シート工学を応用した乳歯歯髄幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発	2016～2019
若手研究 (B)	数学	助教	川口 良	偏極トリーク多様体の断面不変量と整凸多面体の関係の研究	2017～2019
若手研究 (B)	微生物感染症学	助教	中野 章代	ワンヘルスアプローチで目指す薬剤耐性菌出現の原因究明と蔓延予防策の構築	2017～2019
若手研究 (B)	精神医学	助教	松岡 究	アルツハイマー型認知症に伴う精神症状に関するドーパミン・セロトニン神経の統合的検討	2017～2019
若手研究 (B)	中央放射線部	副主任主査	藤谷 信将	FFF ビームによる高線量率外部照射における治療効果の検討	2017～2019
若手研究 (B)	集中治療部	助教	西和田 忠	麻酔関連薬剤の長時間曝露が口腔癌細胞の生存に影響を与えるか?	2017～2019
若手研究 (B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	伊藤 妙子	めまい平衡障害モデルマウスの開発と平衡リハビリテーションへの応用	2017～2019
若手研究 (B)	眼科学	助教	宮田季美恵	早期緑内障と生体リズムに関する大規模コホート研究	2017～2019
若手研究 (B)	集中治療部	助教	園部 葵太	急性呼吸促進症候群におけるヒストンメチル化酵素 Setdb2 の役割と臨床的意義	2017～2019
若手研究 (B)	口腔外科学	医員	上山 善弘	顎骨における放射線性骨壊死の制御を目的とした間葉系幹細胞の研究	2017～2019
若手研究 (B)	看護学科 公衆衛生看護学	助教	堀内沙央里	奈良県の Helicobacter spp. による環境汚染とヒトへの感染経路の解明	2017～2019
若手研究 (B)	整形外科	博士研究員	速水 直生	前腕骨における骨折・脱臼と靭帯損傷の関連	2017～2020
若手研究 (B)	救急医学	助教	奥田 哲哉	重症脊髄損傷に対するナノテクノロジーと細胞シート工学のハイブリッド治療法の開発	2017～2019
若手研究	第二生理学	助教	吉田 純子	マウス ES 細胞の神経分化抵抗性に関する新規遺伝子の機能解析	2018～2020
若手研究	第二生理学	助教	柏木 克信	SWI/SNF クロマチンリモデリング因子によるクロマチン構造変換調節機構の解明	2018～2020
若手研究	病理診断学	医員	内山 智子	間歇的低酸素によるアディポカイン発現とその分子機構の解明	2018～2019
若手研究	病理診断学	講師	中井登紀子	肺腫瘍間質における弾性線維合成機序の解明	2018～2020
若手研究	放射線医学	医員	南口貴世介	ビーズ TAE 後の血行動態の解明とパラメトリックイメージングによる効果判定の確立	2018～2019
若手研究	放射線医学	医員	立元 将太	世界初の酸化的 DNA 損傷抗体を用いた肝動脈化学塞栓術における DNA 損傷蓄積の評価	2018～2019
若手研究	放射線医学	医員	田口 秀彦	凍結肩に対する新規低侵襲治療に関する研究: 作用機序の解明と効果の画像評価法の確立	2018～2019
若手研究	小児科学	医員	辻井 信之	川崎病の病態・合併症における VWF-ADAMTS13 軸の解明及び新規治療薬の開発	2018～2021
若手研究	小児科学	医員	大西 智子	包括的凝固線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固の新規診断法の確立	2018～2020
若手研究	第三内科学	助教	佐藤 慎哉	肝臓に対する Sulforaphane の抗腫瘍効果の検討	2018～2020
若手研究	第三内科学	医員	賀屋 大介	NASH に対する胆汁酸受容体 TGR5 の活性化と既存薬剤を応用した新規治療法の開発	2018～2020
若手研究	循環器内科学	医員	中田 康紀	慢性腎臓病における PIGF と sFlt-1 の発現不均衡に関する機序の解明	2018～2019
若手研究	循環器内科学	医員	中川 仁	心臓局所のネプリライシンが ANP 系のパラクライン作用を減弱する機序の解明	2018～2020
若手研究	総合医療学	医員	田井 義彬	脈波自由行動下血圧計による冬季入浴中の血圧の実態調査	2018～2021
若手研究	腎臓内科学	助教	江里口雅裕	糖尿病におけるマクロファージによる尿細管障害とアルブミン再吸収障害の機序の解明	2018～2020
若手研究	腎臓内科学	講師	鮫島 謙一	糖尿病性腎症での腎組織内小血管病変と大血管病である心血管イベントとの関連の検討	2018～2020
若手研究	腎臓内科学	博士研究員	松井 勝	新規抗動脈硬化因子可溶性 Flt-1 による腎硬化症の発症機序解明と臨床的展開	2018～2021
若手研究	皮膚科学	特任助教	御守 里絵	分子標的治療薬による皮膚障害における表皮自然免疫応答の研究	2018～2019
若手研究	中央内視鏡部	助教	井上 隆	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術における遊離腫瘍細胞と局所再発に関する研究	2018～2019
若手研究	中央手術部	助教	新城 武明	疼痛鈍麻の表現型を示す遺伝子変異マウスの包括的遺伝子解析から新たな疼痛因子を探る	2018～2019
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	PD-1 遺伝子破壊 EGFRVIII 特異的 CAR-T 細胞による膠芽腫治療法の開発	2018～2019
若手研究	整形外科	助教	福垣 有佐	間葉系幹細胞の酸素濃度変化に着目した変形性膝関節症の病態解明	2018～2019
若手研究	分子病理学	助教	岸 真五	ミトコンドリア NEET の標的化による骨肉腫治療の研究	2018～2019
若手研究	整形外科	助教	清水 隆昌	間葉系幹細胞シートと組織移植を融合させたハイブリッド型自家神経作成の試み	2018～2021
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	阪上 雅治	高度前庭障害に対する多能性幹細胞を用いた細胞移植治療の開発	2018～2019
若手研究	口腔外科学	学内講師	堀田 聡	即時荷重インプラントオーバーデンチャーにおける微小動揺の予測とプロトコルの確立	2018～2020
若手研究	口腔外科学	助教	仲川 洋介	核-細胞間輸送に関与する受容体を標的とした口腔がん治療の基礎研究	2018～2020
若手研究	法医学	助教	勇井 克也	新規収縮物質 Up4A を介する炎症時における一過性血管収縮へのアルコールの影響	2018～2021
若手研究	糖尿病学講座	医員	西岡 祐一	全診療報酬情報を用いた糖尿病診療の時空間疫学分析	2018～2021
若手研究	看護学科 小児看護学	講師	小代 仁美	小児がんの子どもの入院経過における家族機能と家族支援	2018～2020
若手研究	看護学科 母性看護学	講師	上田 佳世	医療の質指標 (QI) を用いた低リスク出産の医療改善プログラムの検証	2018～2021
若手研究	分子病理学	博士研究員	川原 勲	中鎖脂肪酸の心筋機能改善作用と臨床応用の検討	2018～2019
若手研究	精神医学	博士研究員	岸本 直子	ロールシャッハ・テストと唾液中ストレスバイオマーカーによる ARMS の同定法の検討	2019～2021
若手研究	第一生理学	助教	杉村 岳俊	視線保持機構における神経積分器と前庭小脳との結合関係の解明	2019～2020
若手研究	第二解剖学	博士研究員	石西 綾美	侵害受容 C 線維の刺激特異性を決める遺伝子の探索と labeled line 説の検証	2019～2021
若手研究	生化学	助教	牧野 舞	2 型リアノジン受容体の組織特異的スプライシングバリエーションの存在意義の解明	2019～2020
若手研究	分子病理学	助教	谷 里奈	膵管癌における p0 形質とゲムシタピン耐性獲得との関連性の解析	2019～2021
若手研究	病理診断学	助教	森田 剛平	平坦型尿路上皮腫瘍の鑑別に関する有用なマイクロ RNA および関連因子の発現機序の解明	2019～2021
若手研究	第一解剖学	研究助教	遠藤のぞみ	集団飼育下長期解析による精神疾患モデルマウスの個体レベルの包括的評価法の構築	2019～2021
若手研究	脳神経内科学	助教	松井 健	ミクログリア含有ヒト脳オルガノイドを用いたヒト脳発生過程の解明	2019～2020
若手研究	放射線医学	助教	越智 朋子	ドラッグデリバリーシステムを応用した腎毒性を軽減できるナノ粒子造影剤の開発	2019～2020
若手研究	脳神経内科学	医員	塩田 智	リピート異常に起因する神経筋疾患の病態解明	2019～2021
若手研究	脳神経内科学	医員	井口 直彦	Danon 病のヒト病態モデルを用いた解析	2019～2022
若手研究	精神医学	助教	中西 葉子	注意欠如・多動症の heterogeneity に関する多面的検討	2019～2021
若手研究	精神医学	助教	北村聡一郎	自閉スペクトラム症の PTSD 様症状の神経基盤に関する研究	2019～2021
若手研究	精神医学	助教	岡村 和哉	社会経験の剥奪による前頭前野の機能障害の起点となる神経細胞の解明	2019～2022
若手研究	放射線腫瘍医学	講師	三浦 幸子	陽子線の生物学的効果比と放射線肺臓炎の関係: 機能画像、放射化画像の応用による解明	2019～2021
若手研究	寄附講座血柱止血分子病理学講座	助教 (寄附講座)	古川 晶子	血友病 A 治療におけるインヒビター発生抑制を標的とした新規 VIII 因子製剤の開発	2019～2022
若手研究	第三内科学	学内講師	高谷 広章	血液凝固因子である VWF を用いた肝細胞癌新規治療法と新規バイオマーカーの開発	2019～2021
若手研究	中央内視鏡部	助教	才川宗一郎	肝内胆管癌に対する NOTCH/YAP 経路のクロストーク制御を介する新規治療の開発	2019～2021

Winner Report

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
若手研究	第三内科学	医員	関 建一郎	NASH 進展に対する FXR 作動薬を用いたカクテル療法の可能性	2019～2020
若手研究	呼吸器内科学	助教	藤田 幸男	呼吸波解析を活用して COPD の呼吸困難を読み解く—新たな呼吸法開発を目指して—	2019～2021
若手研究	皮膚科学	助教	西村 友紀	薬剤性過敏症候群発症後にヒトヘルペスウイルス 6 の持続感染をきたした症例の検討	2019～2021
若手研究	輸血部	医員	酒井 和哉	新規 von Willebrand 因子阻害アプタマーの血栓形成阻害効果の多面的検討	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	洲尾 昌伍	小児固形癌における獲得免疫機構の統合的解析	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	吉川 高宏	ADAMTS13 関連因子を軸とした肝虚血再灌流障害に対する新規治療戦略	2019～2021
若手研究	腫瘍センター	医員	國重 智裕	ユビキチン修飾系を標的とした新規食道癌治療法の臨床導入を目的とした研究	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	松尾 泰子	CD200 をターゲットとした大腸癌肝転移に対する新規治療法の開発	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	中村 広太	膵癌における CD70 発現の意義の解明と新規治療の開発	2019～2020
若手研究	消化器・総合外科学	医員	岩佐 陽介	CD200 陽性大腸癌細胞の機能解析による新規大腸癌治療の開発	2019～2020
若手研究	中央手術部	助教	植村 景子	全身麻酔下の VEP モニタリングにおける振幅低下時の最適警告基準の検討	2019～2021
若手研究	麻酔科学	助教	寺田 雄紀	メンブレントラフィックに着目した新たな疼痛メカニズムの解明	2019～2022
若手研究	リウマチセンター	医員	吉良 務	術後関節拘縮および癒着に対する合成吸収性癒着防止剤による新規予防法の開発	2019～2020
若手研究	口腔外科学	博士研究員	中嶋 千恵	口腔衛生が免疫チェックポイント阻害薬の奏功性に及ぼす影響	2019～2021
若手研究	看護部	技師	久保慎一郎	NDB (レセプトデータ) を用いた難病患者の疫学調査の手法開発と治療実態の把握	2019～2022
若手研究	看護学科 基礎看護学	助教	櫻井 優祐	新人看護師生観サポートプログラムの構築	2019～2021
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	塩崎 智之	めまい平衡リハビリの客観的評価法の確立と効果的なりハビリプログラム開発への応用	2019～2021
若手研究	分子病理学	博士研究員	後藤 桂	悪液質におけるクレアチン・サイクル障害の検討	2019～2021
若手研究	放射線医学	医員	齊藤 夏彦	超音波加温時の音速変化率の測定による、癌治療効果の早期予測	2019～2020
研究活動 スタート支援	未来基礎医学	助教	七浦 仁紀	ヒト iPS 細胞からの中脳オルガノイド作製手法の確立	2018～2019
研究活動 スタート支援	疫学・予防医学	助教	山上 優紀	身体活動リズムとサルコペニア・フレイルの関連：前向きコホート研究横断分析	2018～2019
研究活動 スタート支援	精神医学	非常勤講師	木納 潤一	統合失調症者が笑いながら楽しく取り組む認知機能リハビリテーション CAT の効果検証	2018～2019
奨励研究	研究推進課	大学職員	福益 孝行	医科大学が地域医療にもたらす影響の地域比較研究	2019
奨励研究	分子病理学	社会人学生	宮川 良博	がん性心筋萎縮に対する栄養補助の検討—糖・中鎖脂肪酸の併用	2019
特別研究員奨励費	循環器内科学	(特別研究員)	熊澤 拓也	心不全における細胞老化誘導機構の解明と老化細胞を標的とした新規治療法の開発	2018～2020

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和元年6月までに累計2,454件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、平成31年4月～令和元年6月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆100万円以上

平野 貞治 様

掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆10万円未満

浅井 達哉 様 児玉 浩明 様 須原 久雄 様
中村 幸子 様

掲載を希望されないご寄附者様 5名

◆30万円以上100万円未満

有住 和浩 様 小泉 宗久 様 林 洋 様
廣橋 里奈 様 宮田 重樹 様

掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

植野 秀樹 様 重松 英樹 様

【法人・企業】

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆10万円以上30万円未満

加輪 上浩之 様 桑原 弘純 様 玉井 涉 様
安納 宗孝 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

(五十音順)

平成31年3月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP (<http://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

第2回NDBユーザー会

開催日：令和元年8月23日(金) 10:00～16:30
場所：株式会社三菱総合研究所 大会議室(東京)
概要：NDB(レセプト情報・特定健診等情報データベース(National Database))の分析方法に関する知識及び技術の開発、健全な普及を図るとともに、NDBの利用環境の向上に関する調査、研究及び提言を行うことを目的としてNDBユーザー会を奈良医大が主幹となって実施している。今回はNDBの健全な利活用を促進し、もって臨床研究や行政施策へ貢献することを目的として集会を実施する。
講演者：発起人 奈良医大公衆衛生学講座 教授 今村知明、京都大学 医学部附属病院 医療情報企画部 教授 黒田知宏、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学 教授 康永秀生 他
対象：NDBの分析に関わるユーザー
備考：事前申込必要 参加費5,000円
問合せ先：NDBユーザー会 <http://square.umin.ac.jp/ndb/>

令和元年度前期 第43回 奈良県立医科大学 公開講座「くらしと医学」

開催日：令和元年9月7日(土) 13:30～15:30
場所：橿原文化会館 大ホール
概要：健康長寿のための血栓症予防をテーマに基調講演とディスカッションを行う。
講演者：奈良県立医科大学小児科学講座 教授 嶋 緑倫 他
対象：県民
定員：1,000名
問合せ先：奈良県立医科大学総務課・県民健康増進支援センター 0744-22-3051(内線2297)

大学入試日程

2019年度 秋入学 大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻 生体情報・病態制御医学専攻 生体分子・機能再建医学専攻	若干名	2019年7月16日(火)～7月19日(金)	2019年8月5日(月)	2019年9月10日(火)

●社会人※の入学も可能です。●社会人には、長期履修制度を設けています。

2020年度 大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 2019年10月15日(火)～10月18日(金) 第二次募集 2020年1月6日(月)～1月10日(金)	第一次募集 2019年11月5日(火) 第二次募集 2020年1月27日(月)	第一次募集 2019年12月10日(火) 第二次募集 2020年3月5日(木)

●社会人※の入学も可能です。●社会人には、長期履修制度を設けています。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
 ●2020年度秋入学の実施については未定です。●大学院修学資金貸与制度(要件を満たした場合返還免除)があります。

2020年度 大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集 2019年10月8日(火)～10月11日(金) 第二次募集 2019年1月14日(火)～1月17日(金)	第一次募集 2019年11月5日(火) 第二次募集 2020年1月27日(月)	第一次募集 2019年12月10日(火) 第二次募集 2020年3月5日(木)

●社会人※の入学も可能です。但し、2020年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

令和2年度 大学院看護学研究科(修士課程)

専攻	コース	専門	募集人員
看護学	看護学コース	【領域】 健康科学 基礎看護学 看護実践応用学 がん看護学 高齢者看護学	小児看護学 精神看護学 公衆衛生看護学 在宅看護学 女性健康・助産学
		高度実践看護師教育課程(クリティカルケア看護分野) 周麻酔期看護師教育課程	
	助産学実践コース	【領域】 女性健康・助産学	5

出願期間	試験日	合格者発表
第一次募集 令和元年7月22日(月)～7月25日(木) 第二次募集 令和元年10月21日(月)～10月24日(木)	第一次募集 令和元年8月26日(月) 第二次募集 令和元年12月2日(月)	第一次募集 令和元年9月3日(火) 第二次募集 令和元年12月10日(火)

●社会人※の入学も可能です。ただし、令和2年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。●社会人には、長期履修制度を設けています。
 ●本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学料が免除される入学料免除制度があります。
 ●高度実践コース(クリティカルケア看護分野)及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者となります。●一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
 ※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

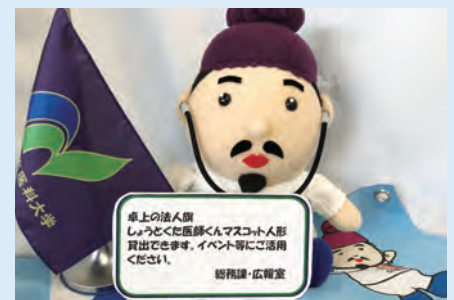
日付	媒体	対象者	掲載概要
2019年	4月3日 NHK総合「ならナビ」	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	近鉄ホールディングスと連携して、近鉄沿線住民対象に進める「近鉄ヘルスケアサービス実証実験」
	4月4日 奈良新聞	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	地域住民を対象としたヘルスケアサービスの実証実験について
	4月10日 NHK総合「NHKニュース おはよう日本」	産婦人科学 教授 小林 浩	妊婦見守り実証実験「妊娠期・子育て支援サービス」についての特集
	4月16日 FM大阪「ホンダスマイルミッション」	名誉教授 大崎 茂芳	クモの糸に関すること
	4月17日 奈良新聞	MBT研究所	「奈良県医療特集」で、MBT活動・IoT見守りサービス等について紹介
	4月18日 読売新聞	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	近鉄グループホールディングスは県立医大と協力して、腕時計型のウェアブル端末を使った実証実験の説明会を実施
	4月25日 日経サイエンス6月号	V-iCliniX講座 理事長 細井 裕司 教授(寄附講座) 佐藤 匠徳	特別鼎談：「生体5次元情報」が医療を変える 新寄附講座について
	5月15日 毎日新聞	V-iCliniX講座	5月16日開催「V-iCliniX講座キックオフシンポジウム」について
	5月16日 奈良テレビ「ゆうドキッ！」	V-iCliniX講座	「V-iCliniX講座キックオフシンポジウム」について
	5月17日 奈良テレビ「ならフライデー9」	V-iCliniX講座	「V-iCliniX講座キックオフシンポジウム」について
	5月20日～24日 関西テレビ「キャラぱら！」		しょうとくた医師くんが大学及び橿原市を紹介
	5月17日 NHK総合「おはよう関西」		辯学園高校より布絵本贈呈
	5月17日 日本経済新聞	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	ICT(情報通信技術)を活用したヘルスケアシステムの普及に奔走
	5月20日 NHK総合「ならナビ」	看護部	看護部 智辯学園高校より布絵本贈呈
	5月24日 朝日新聞デジタル	名誉教授 大崎 茂芳	大崎名誉教授ミノムシの糸について
	5月28日 日経メディカル	糖尿病学 医員 西岡 祐一	重症低血糖から10日以内はACSリスクが上昇(第62回糖尿病学会年次学術集会YIAセッションでの発表)
	6月11日 フジテレビ「Live News it」		
	6月12日 TBSテレビ「あさチャン」		
	6月12日 フジテレビ「とくダネ！」		
	6月1日 TBSテレビ「ひるびお」	疫学・予防医学 准教授 大林 賢史	夜間の光曝露が肥満のリスクになるメカニズムなどを解説

学内向け広報グッズ貸出等について

広報室では、学内の行事等で広く使っていただけるよう、イメージキャラクターであるしょうとくた医師くんのマスコット人形(約25cm)と卓上の法人旗を貸出しています。

インタビュー時の貸出用バックボード(布製:縦1,500mm×横2,062mm)も用意しておりますので、ご活用ください。

また、本法人を紹介するツールとして、教育・研究・診療の概要をまとめた法人案内(日本語版、英語版)も用意しておりますので、来客時、他学・他院との交流時に配付する等の用途にご活用ください。



編集後記

皆様からのご協力をいただき第69号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年度の本学の決算が報告されましたが、厳しい経営状況が続きます。改めて経費節減等の意識を持ち、日々の業務に取り組みたいと思います。



このページに広告を掲載しませんか? くわしくはこちら

→ <http://www.narmed-u.ac.jp/university/gaiyo/shokai/gakuho/index.html>

学報バックナンバーはwebサイト上でもご覧いただけます。(<http://www.narmed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)